



学習内容

令和3年度
福島看護専門学校

カリキュラム内容・目的

分野	基礎分野	単位	13単位	時間	375時間
教育内容	科学的思考の基盤	単位	3単位	時間	90時間
	人間と人間生活の理解		10単位		285時間
目的	個としての人間、環境と相互作用を営む社会的存在としての人間、及び健康と環境の相互作用について理解を深め人間として成長することが出来る。				

分野	専門基礎分野	単位	23単位	時間	510時間
教育内容	人体の構造と機能	単位	5単位	時間	120時間
	疾病の成り立ちと回復の促進		12単位		285時間
	健康支援と社会保障制度		6単位		105時間
目的	疾病のメカニズムを理解し、観察力・判断力を養い健康回復を促進するための基礎知識を養う。				

分野	専門分野Ⅰ	単位	14単位	時間	435時間
(基礎看護学実習Ⅰ1単位 45時間 基礎看護学実習Ⅱ2単位 90時間含む)					
教育内容	基礎看護学	単位	11単位	時間	300時間
目的	看護の対象を生活者として理解し、看護を提供するあらゆる場における対象に対し、健康レベルやライフステージに応じて健康の保持増進及び回復に関わる援助に必要な看護の考え方や基本的な方法を学ぶ。				

分野	専門分野Ⅱ	単位	38単位	時間	1320時間
(臨地各論実習16単位 720時間含む)					
教育内容	成人看護学	単位	6単位	時間	180時間
	老年看護学		4単位		105時間
	小児看護学		4単位		105時間
	母性看護学		4単位		105時間
	精神看護学		4単位		105時間
目的	基礎分野、専門基礎分野で得た知識・技術・態度を活用し、成長発達段階とあらゆる健康レベルの人々を対象として看護の必要性を判断し援助するための基礎的知識・技術・態度を養う。				

分野	統合分野	単位	12単位	時間	360時間
(在宅看護論実習2単位 90時間 看護の統合と実践実習2単位 90時間含む)					
教育内容	看護の統合と実践	単位	4単位	時間	90時間
	在宅看護論		4単位		90時間
目的	既習した知識や技術を引き出し、研究的な視点を持って統合し、より臨床実践に近い形で学びとし、看護教育の集大成とする。				

目 次

1. 基礎分野

1) 科学的思考の基盤

① 物理学	1
② 論理学	2
③ 情報科学	3

2) 人間と人間生活の理解

① 社会学	4
② 心理学	5
③ 教育論	6
④ 人間関係論	7
⑤ 倫理学	8
⑥ 英語 I	9
⑦ 英語 II	10
⑧ 体育	11
⑨ 保健体育	12
⑩ 地域の環境	13

2. 専門基礎分野

1) 人体の構造と機能

① 生態機能学 I	14
② 生態機能学 II	15
③ 生化学	16

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

① 微生物学	17
② 栄養と生活	18
③ 薬理学	19
④ 疾病論 I (病理学総論)	20
⑤ 疾病論 II (呼吸器、循環器)	21
⑥ 疾病論 III (消化器)	22
⑦ 疾病論 IV (運動器)	23
⑧ 疾病論 V (脳神経)	24
⑨ 疾病論 VI (血液、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病)	25
⑩ 疾病論 VII (腎・泌尿器、女性生殖器)	26
⑪ 疾病論 VIII (感覚器)	27
⑫ 疾病論 IX (放射線治療、リハビリテーション、手術療法)	28

3) 健康支援と社会保障制度

① 総合医療論	29
② 地域保健論	30
③ 社会福祉論	31
④ 関係法規	32

3. 専門分野 I

1) 基礎看護学

① 基礎看護学概論(看護の理解)	33
② 基礎看護学方法論 I (看護の基本となる技術)	34
③ 基礎看護学方法論 II (看護の基本となる技術)	35
④ 基礎看護学方法論 III (看護の基本となる技術)	36
⑤ 基礎看護学方法論 IV (看護の基本となる技術)	37
⑥ 基礎看護学方法論 V (生活を整える技術)	38
⑦ 基礎看護学方法論 VI (生活を整える技術)	39
⑧ 基礎看護学方法論 VII (診療補助技術)	40
⑨ 基礎看護学方法論 VIII (診療補助技術)	41
⑩ 基礎看護学方法論 IX (臨床看護の実践)	42
⑪ 基礎看護学方法論 X (臨床看護の実践)	43
⑫ 基礎看護学実習 I	44
⑬ 基礎看護学実習 II	45

4. 専門分野Ⅱ

1) 成人看護学

① 成人看護学概論(対象の理解)	46
② 成人看護学方法論Ⅰ(危機的状況にある人の看護Ⅰ)	47
③ 成人看護学方法論Ⅱ(危機的状況にある人の看護Ⅱ)	48
④ 成人看護学方法論Ⅲ(障害受容期にある人の看護)	49
⑤ 成人看護学方法論Ⅳ(セルフケア期にあたる人の看護)	50
⑥ 成人看護学方法論Ⅴ(終末期にある人の看護)	51
⑦ 成人看護学実習Ⅰ	52
⑧ 成人看護学実習Ⅱ	53
⑨ 成人看護学実習Ⅲ	54

2) 老年看護学

① 老年看護学概論(対象の理解)	55
② 老年看護学方法論Ⅰ(健康障害・疾病をもつ高齢者の看護)	56
③ 老年看護学方法論Ⅱ(保健・医療・福祉制度活用の理解)	57
④ 老年看護学方法論Ⅲ(看護展開)	58
⑤ 老年看護学実習Ⅰ	59
⑥ 老年看護学実習Ⅱ	60

3) 小児看護学

① 小児看護学概論(子どもの理解)	61
② 小児看護学方法論Ⅰ(健康障害)	62
③ 小児看護学方法論Ⅱ(小児看護)	63
④ 小児看護学方法論Ⅲ(小児看護技術)	64
⑤ 小児看護学実習Ⅰ	65
⑥ 小児看護学実習Ⅱ	66

4) 母性看護学

① 母性看護学概論(対象の理解)	67
② 母性看護学方法論Ⅰ(妊娠期にある人々と家族の看護)	68
③ 母性看護学方法論Ⅱ(分娩期にある人々と家族の看護)	69
④ 母性看護学方法論Ⅲ(産褥期と新生児およびその家族の看護)	70
⑤ 母性看護学実習	71

5) 精神看護学

① 精神看護学概論(対象の理解)	72
② 精神看護学方法論Ⅰ(精神看護)	73
③ 精神看護学方法論Ⅱ(精神障害)	74
④ 精神看護学方法論Ⅲ(精神科看護)	75
⑤ 精神看護学実習	76

5. 統合分野

1) 看護の統合と実践

① 看護管理	77
② 医療安全	78
③ 救急医療	79
④ 災害看護	80
⑤ 看護の統合と実践実習	81

2) 在宅看護論

① 在宅看護概論(在宅看護の理解)	82
② 在宅看護方法論Ⅰ(在宅看護技術)	83
③ 在宅看護方法論Ⅱ(地域連携)	84
④ 在宅看護方法論Ⅲ(在宅看護活動)	85
⑤ 在宅看護論実習	86

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤			単位	3	時間	90
科目	物理学	単位	1	時間	30	進度	1年次前期		
目的 医療や人体に関連した物理現象を通し、物理学の基礎知識と物理的な思考を学ぶ									
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師		
学習目標		授業内容					大学准教授 理学博士		
物や人が安定する共通の要因を理解する		1.単位・重力について 2.力ってなに？ 1)スカラーとベクトル 2)力のつりあい 3)ベクトルの足し方と分解 3.力の法則 1)ニュートンの運動の法則 2)摩擦の力 3)力の単位 4.トルク・トルクの応用 1)てこの原理 2)静止するための条件 3)担架をもつとき 5.重心と安定 1)腰を曲げたときにかかる力 2)ボディメカニクスの中の物理							
流体による圧力の作用を知り、看護の基礎技術がどのような作用機序に基づいて行われるのかを理解する		6.流れの物理 1)圧力 2)気体の法則 3)ドレナージ 4)サイホン 5)流体の摩擦 7.点滴の物理 8.血圧測定 of 物理							
テキスト: 完全版 ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー, 学研 参考書: 看護学生のための 物理学第4版, 佐藤和良著, 医学書院 ベッドサイドに生かす 単位・量・数式のはなし, 平田雅子著, Gakken									

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤	単位	3	時間	90
科目	論理学	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
目的	医療者に必要な、事象を論理的に思考して客観的に評価することや、状況に応じた科学的思考をすることができる。また、文章を論理的に表現するための基礎を身につける。						
方法	講義	評価方法	課題、筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						大学院研究員 大学講師 博士(文学)
論理学を学ぶ意義を理解する	イントロダクション 1.論理学の対象、主観的な関係と客観的な関係 2.日常的な論理的思考と論理学						
論理学の基礎を身につける	命題論理学 3.論理学の用語の導入 4.日本語の実質的な含意と記号化 5.推論規則(1)肯定式、否定式、選言三段論法、仮言三段論法等 6.推論規則(2)四つのディレンマ						
確実に言い得ることは何かを理解する	述語論理学 7.全称命題、特称命題、単称命題 8.矛盾と整合						
論理学と実践的な課題との関連性を理解する	帰納論理学 9.枚举的帰納、類推(アナロジー)、アブダクション 10.帰納と演繹 11.仮説、法則、理論、仮説演繹法(1) 12.仮説演繹法(2)、仮説演繹法と看護過程 13.科学に期待される説明、予測、応用						
自身の価値の表現のために論理学を用いる	論述文 14.論述文の基礎(1)形式と内容 15.論述文の基礎(2)注意事項と評価の実際						
テキスト:『論理の基礎と活用』、内田詔夫(著)、北樹出版 参考書:『「科学的思考」のレッスン』、戸田山和久(著)、NHK出版 『はじめよう、ロジカル・ライティング』、名古屋大学附属中学校・高等学校国語科(著)、ひつじ書房							

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	3	時間	90
科目	情報科学	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的 情報科学の基礎を理解し、コンピュータを用いた情報収集、整理、統計処理について学ぶ							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						大学教授 心理学博士
情報科学の基礎を理解する	1.情報科学の基礎 1)情報科学とは 2)情報科学の必要性 3)情報と情報処理						
統計処理の概要を知る	2.統計処理の概要 1)統計処理とは 2)統計処理の分類						
情報処理におけるコンピュータの安全な利用方法を理解する	3.コンピュータと情報科学 コンピュータの利用と情報のセキュリティ						
インターネットの基礎的知識を理解する	4.インターネットの利用 1)インターネットとは 2)インターネットを利用したアプリケーション						
パソコンを用いた情報の表現方法を学ぶ	5.情報を表現する 1)パワーポイント 2)グラフ 3)表計算						
看護における情報の必要性を理解する	6.看護情報学への応用 インターネットを用いた学習と研究						
テキスト:適宜資料を配布 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	社会学	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
目的	社会の構造と集団・組織・ネットワークを理解し、社会の変遷と現代社会の様々な問題を知り、今後の動向に眼を向ける習慣を身に付けることの必要性を学ぶ。また、社会の中で生活している人間を医療・経済・産業の面からも捉え、社会のシステムから現状や問題等を思考する力を養う						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						
社会の機能と構造の変化を理解する	1.社会と人間 社会学とはなにか(社会的存在としての人間) 2.社会病理の診断 1)自殺 2)自由からの逃走 3)孤独な群集 3.社会学の視点～潜在的機能						大学教授 社会学博士
医療と看護に関する諸問題を社会学の立場から考察する	4.医療と看護の社会学 1)近代西洋医学のパラダイム 2)病気と死の社会学 3)病院と患者の権利 4)医療化・専門化と医療・看護のイデオロギー 5.医療・看護と社会的想像力						
テキスト:適宜資料の配布 参考書:看護学生のための日本看護史. 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 社会学. 医学書院							

基礎分野

分野	基礎分野		教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285	
科目	心理学		単位	1	時間	30	進度	1年次前期	
目的	人間の一般的な心理・行動の原理・原則を知り、対象の理解や対人関係に必要な基礎的知識を学ぶ								
方法	講義		評価方法	筆記試験・レポート				講師	
学習目標		授業内容							
人間が環境に適応するために必要な機能の働きを理解する		1.心理学の基礎と日常生活 2.感覚・知覚の心理 3.記憶の心理とそのメカニズム 記憶のしくみ 4.思考の心理 1)思考・想像の心理 2)言語の心理 5.人間の知的能力とは 6.学習行動とその関連要因 7.感情動機の心理 1)感情情緒 2)動機欲求 8.適応の心理 1)人と環境 2)ストレスとコーピング 9.性格の心理と性格検査 1)性格の形成 2)性格の理解						大学教授 教育学修士	
集団の構造を知り、集団の心理の基本を理解する		10.集団の心理 1)集団の形成と機能 2)集合行動 3)グループ・アプローチ							
発達段階の特徴を知り、対象に応じた対応の仕方を理解する		11.発達の心理 1)発達の原理 2)発達段階の特徴							
コミュニケーション技術に活用できる援助方法を理解する		12.カウンセリング 1)カウンセリングの意義 2)カウンセリングの方法							
テキスト:看護学生のための心理学第2版, 医学書院 参考書:よくわかる心理学, 無藤隆, 他(編), ミネルヴァ書房 心理学で何がわかるか, 村上宣寛, ちくま新書									

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	教育論	単位	1	時間	30	進度	3年次前期
目的 教育の意義と本質を知り、人間的成長を促すための効果的・意図的な関わりを学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート			講師	
学習目標	授業内容						
教育の基礎知識を理解する	1.教育とはなにか 2.教育の歴史と変遷 3.教育制度						医師
教育が行われている場を理解し、教育についての今日における問題点を考察する	4.家庭における教育 5.学校における教育 6.社会における教育						
事例をもとに個人・家族・集団を対象とした教育・指導の実際を理解する	7.看護における教育 8.健康教育と指導 9.教育・指導の評価						
テキスト:系統看護学講座 基礎分野 教育学, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	人間関係論	単位	1	時間	30	進度	2年次後期
目的 対人援助に欠かすことのできない人間関係形成に必要な基礎知識、技術及び望ましい態度を学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標		授業内容					
人間関係の基礎知識を理解する		1.人間存在と人間関係 1)社会的存在としての人間 2)看護ケアや社会福祉援助における人間関係 2.社会的相互作用と社会的役割 3.コミュニケーション 1)コミュニケーションの障害 2)援助的コミュニケーション 4.人間関係の研究と応用					大学教授 社会学博士
看護における人間関係の諸相を理解する		5.体験による学習効果と人間関係の体験学習 6.家族の人間関係 1)近代 2)日本 3)現代 7.看護における人間関係 1)保健医療チームの人間関係 2)闘病生活を支える人間関係 3)終末期の患者と家族を支える人間関係					
テキスト:系統看護学講座 基礎分野 人間関係論. 医学書院 参考書:人を育む人間関係論－援助専門職者として、個人として－. 医学書院							

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	倫理学	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	医療の発展や生命科学の進展によって生じている、人間の生命や医療に関する倫理(哲学)的、社会的問題について、医療者として、患者・家族として、社会の市民として考え、自分自身の考えを根拠とともに表現できるようになる。						
方法	講義	評価方法	課題、筆記試験				講師
学習目標	授業内容						大学研究員 大学講師 博士(文学)
医療者が倫理学を学ぶ意義を理解す	1.イントロダクション ヒトと人、事実と価値との違いについて考える。						
倫理学の考え方、概念、理論を通じて、自己(医療者)と他者(患者・家族)との違いを理解す	2.自己理解 自分とはどのような存在であるかについて考える。 3.原則の倫理と徳倫理 自分は「どうすべきか」と「どうあるべきか」との違いについて考える。 4.他者理解 自分と他者はどのように違うのかについて考える。						
人間の生命、尊厳、権利、医療等に関する倫理的諸問題を理解し、自分自身の考えを表	5.生殖医療と優生思想 子どもを産むために、どこまで医療を用いてよいかについて考える。 6.人工妊娠中絶 子どもを産むことと、産まないことについて考える。 7.健康と医療化 他者より賢くない、強くない、美しくないことについて考える。 8.老化と寿命 不老不死は望ましいことなのかについて考える。 9.幸せと病の告知 幸せであるとはどういうことなのかについて考える。 10.人生の最終段階 映画を観て、終末期患者の人生観や終活について考える。 11.インフォームド・コンセントと意思決定 パターナリズムと患者の自己決定について考える。 12.脳死と臓器移植 ヒトの死と人の死は違うのかについて考える。 13.安楽死 患者が望むなら、死なせてあげるのがよいのかについて考える。 14.先端医療の倫理 再生医療、遺伝子医療等における倫理的懸念について考える。						
看護職に求められる公的および倫理的実践や態度を理解する。	15.看護の倫理 看護実践における義務、責任、責務、倫理的概念について考える。						
テキスト:系統看護学講座 別巻 看護倫理. 医学書院 参考書:『マンガで学ぶ生命倫理』、児玉聡(著)、化学同人 『入門・医療倫理1(改訂版)』、赤林朗(編)、勁草書房							

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	英語Ⅰ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
目的 看護場面に必要な日常英会話と専門医学英語の基礎知識を学ぶ							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						大学講師 教養学士 政治学修士
臨床看護に英文によく出る基本文形や語録を理解する	1. 臨地場で使う英文 1) 基本文型 2) 正しい発音						
主体的な言語活動を身につける	2. 英会話の実践 1) ペアを組んでの会話 2) ロールプレイング						
看護に関連する単語や慣用句を理解する	3. 看護に関連する単語・慣用句 1) 身体各部の英語名 2) 医療用具の英語名 3) 看護用語						
テキスト: クリスティーンのやさしい看護英会話. 医学書院 参考書: 適宜							

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	英語Ⅱ	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
目的 国際社会に対応するための英語の読解力、コミュニケーション能力を養う							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						大学講師 教養学士 政治学修士
英語による対話を 方法を身につける	1.ダイアログ 1)語句 2)英語での表現						
主体的な言語活動 を身につける	2.コミュニケーション 1)あいさつ 2)日常生活で役立つ会話 3)看護場面で役立つ会話						
テキスト:クリスティーンのやさしい看護英会話、医学書院 参考書:適宜							

基礎分野

分野	基礎分野		教育内容		人間と人間生活の理解		単位	10	時間	285
科目	体育		単位	1	時間	30	進度	1年次前期		
目的 心身の健康の必要性を理解し、主体的に健康の維持増進を図るための能力と技能を養う										
方法	演習		評価方法		実技試験				講師	
学習目標			授業内容						スクールマスター 高等学校教諭 一種教員免許(保健体育)	
基礎的な体力づくりの方法を身につける			1.基礎体力づくり 1)準備体操 2)ストレッチ							
競技を円滑に運営するための基礎を身につける			2.運動についての知識の理解 1)各運動の特性 2)自己の目標・集団の目標の設定 3)競技の中での目標(個人・集団)設定・作戦・ゲームの工夫 4)競技の運営やルール・審判の方法							
競技を行うための基礎技術を身につける			3.各競技の中で、個人技能・集団技能の活用							
テキスト:適宜資料を配布										

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	保健体育	単位	1	時間	15	進度	3年次前期
目的	豊かな感性・協調性・表現力・創造力を育む上で、主体的に自己の健康管理を目指し、体力の維持と健全な心身を養い明朗性・リーダーシップ性を学ぶ						
方法	演習	評価方法	実技試験				講師
学習目標	授業内容						スクールマスター 高等学校教諭 一種 教員免許(保健体育)
基礎的な体力づくりの方法を身につける	1.基礎体力づくり 1)準備体操 2)ストレッチ						
適度な運動療法について理解することができる	2.健康の維持増進における運動の必要性 3.運動方法と量 4.自己の運動量測定 5.運動プログラム計画・実施・評価						
レクリエーション活動を実施することができる	6.レクリエーションの意義 7.レクリエーションの企画・運営 8.レクリエーションの実施・評価						
テキスト:適宜資料を配布							

基礎分野

分野	基礎分野	教育内容	人間と人間生活の理解	単位	10	時間	285
科目	地域の環境	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
目的	地球規模の環境問題についてその概要と原因について学び、身近な河川の水質や大気を調査し、現状を知る。各自の生活を基にその対策を考える能力を養い、行動する態度を身につける						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標	授業内容						高等学校教諭 一種教員免許(理科)
環境問題の意義と環境活動の歴史を理解する	1.環境問題理解のための科学的基礎知識 1)化学的分野・生物学的・物理学・地学的分野 2)生物学的分野 3)物理学的分野 4)地学的分野						
環境問題の概要を理解する	2.環境問題の現状 1)地球環境 2)日本 3)本県						
限りある資源の将来と問題の対策方法を理解する	3.エネルギーなどの資源の将来とその対策 1)地球・本県の温暖化現象の原因と防止対策 2)家庭ゴミ・産業廃棄物の現状と問題点 3)ゴミの減量化対策 4)日常生活を振り返って環境問題を考える						
身近にある環境の実際を体験を通して理解する	4.観察 1)河川の水質調査 2)大気汚染測定 3)植生の調査 5.食品管理および家庭用品 1)食品安全確保対策 2)食品衛生管理制度 3)家庭用品の安全対策						
テキスト:適宜資料を配布 参考書:地球環境学入門. 山崎友紀. 講談社							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位	5	時間	120
科目	生態機能学Ⅰ	単位	2	時間	60	進度	1年次前期
目的	人体を構成する各部の形態と機能を学び、それによって生物体が生存のために営む複雑な仕組みを理解する						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						医師 医学博士
人体とそれを構成している器官や組織の構造と機能について理解する	1.人体の構成とその働き 1)生命とは何か? 2)遺伝子・細胞・組織・器官・器官系 3)人体を表現する医学用語と体表の観察 4)外皮 2. 体液と血液 1)水の化学的性質と身体機能との関係 2)体液 3)血液の構造とその意義 3.身体的支持と運動 1)骨の構造と生理学的意義 2)全身の骨格 3)筋肉の構造と働き 4)全身の骨格筋 4.循環と呼吸 1)循環器の概念 2)心臓の構造と機能 3)心電図の原理 4)血管の構造と機能 5)大循環系と肺循環系及び胎児循環 6)血圧 7)呼吸器の構造(気道と呼吸部) 8)呼吸の生理学 5.消化と吸収・排泄 1)消化・吸収・排泄とは何か 2)消化管の構造と機能 3)肝臓と胆路の構造と機能 4)泌尿器の構造と機能 6.情報の処理 1)神経系の構造と機能 2)目の構造と視覚 3)耳の構造と聴・平衡感覚 7.身体の調節 1)恒常性とは何か? 2)内分泌調節 3)自律神経の構造と機能 4)体温 8.生殖と発生 1)性差と思春期 2)生殖細胞と性染色体 3)男性生殖器の構造と機能 4)女性生殖器の構造と機能 5)受精と胎児発生 1年時・2年時に肉眼解剖見学、顕微解剖実習を行い学びを深める						
テキスト:テキストは指定せず、内容に合わせた講義資料及び演習問題を作成し配布する 参考書: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]. 医学書院							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位	5	時間	120
科目	生態機能学Ⅱ	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
目的	人体の正常な生体機能がどのような機序で現れ維持されているのかを、細胞、組織、器官から捉え理解する						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						医師 医学博士
生態機能学Ⅰで学んだ身体的基本的な構造と機能に関する知識を踏まえて、刻々と変化する外部環境の中で人体がいかんとして生命を維持し、その形質を子孫へ継承させているかを理解する	1. 人体の構成とその働き 1) 生命とは何か? 2) 遺伝子・細胞・組織・器官・器官系 3) 人体を表現する医学用語と体表の観察 4) 外皮 2. 体液と血液 1) 水の化学的性質と身体機能との関係 2) 体液 3) 血液の構造とその意義 3. 身体の支持と運動 1) 骨の構造と生理学的意義 2) 全身の骨格 3) 筋肉の構造と働き 4) 全身の骨格筋 4. 循環と呼吸 1) 循環器の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図の原理 4) 血管の構造と機能 5) 大循環系と肺循環系及び胎児循環 6) 血圧 7) 呼吸器の構造(気道と呼吸部) 8) 呼吸の生理学 5. 消化と吸収・排泄 1) 消化・吸収・排泄とは何か 2) 消化管の構造と機能 3) 肝臓と胆路の構造と機能 4) 泌尿器の構造と機能 6. 情報の処理 1) 神経系の構造と機能 2) 目の構造と視覚 3) 耳の構造と聴・平衡感覚 7. 身体の調節 1) 恒常性とは何か? 2) 内分泌調節 3) 自律神経の構造と機能 4) 体温 8. 生殖と発生 1) 性差と思春期 2) 生殖細胞と性染色体 3) 男性生殖器の構造と機能 4) 女性生殖器の構造と機能 5) 受精と胎児発生						
	1年時・2年時に肉眼解剖見学、顕微解剖実習を行い学びを深める						
テキスト:テキストは指定せず、内容に合わせた講義資料及び演習問題を作成し配布する 参考書: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]. 医学書院							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能		単位	5	時間	120	
科目	生化学		単位	2	時間	30	進度	1年次前期			
目的 生体の構成成分である物質の構造機能と、生体内で営まれている代謝過程のメカニズムを学ぶ											
方法	講義		評価方法		筆記試験				講師		
学習目標		授業内容									
生体の成り立ちと構成している基本物質について理解する		1. 生体の成り立ちと生体分子 1) 生体の成り立ち 2) 細胞の構造と機能 3) 生体の成分と物質 4) 物質輸送と情報伝達								理学博士	
栄養と代謝のメカニズムについて理解する		2. 栄養と代謝 1) 物質の分解と合成 2) 消化・吸収 3) 酵素 4) ビタミンと補酵素 5) 糖代謝 6) 脂質代謝 7) アミノ酸代謝と先天性代謝異常									
内部環境の恒常性について理解する		3. 体液と電解質 1) 体液 2) 水と電解質 3) 酸・塩基平衡									
血液成分とそのはたらきを理解する		4. 血液成分と機能 1) 血液成分 2) 血液凝固 3) 生体防御・免疫 4) ホルモン									
代謝産物の排泄について理解する		5. 排泄の機能 1) 腎臓の構造 2) ろ過と再吸収 3) 尿生成の体液性調整									
遺伝のしくみについて理解する		6. 遺伝のしくみ 1) 遺伝子と遺伝 2) 遺伝子の発現 3) 突然変異と遺伝性疾患									
テキスト: わかりやすい生化学―疾病と代謝・栄養の理解のために―, ヌーヴェルヒロカリ 参考書: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学, 医学書院 看護学生のための自己学習2 生化学・栄養学 3版, 金芳堂											

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進		単位	12	時間	285
科目	微生物学	単位	1	時間	30	進度	1年次前期	
目的	微生物の生物界における位置や微生物が繁殖するための機構、微生物が人体におよぼす影響を学ぶ							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験				講師	
学習目標	授業内容							大学助教 医学博士 理学博士
微生物学の基礎的知識を理解する	1.微生物とはなにか 1)微生物の種類と特徴 2)細菌の性質 3)真菌の性質 4)原虫の性質 5)ウイルスの性質							
感染の基本的な概念を理解する	2.感染とその防御 1)感染と感染症 2)免疫のしくみ 3)感染源・感染経路からみた感染症 4)感染症の予防 5)感染症の治療 6)感染症の現状と対策 化学療法薬 7)おもな病原微生物							
感染症とその予防方法を理解する	3.感染症の診断 1)病原体を検出する方法と実際(演習) 手洗い後、検体採取し顕微鏡で観察 2)生体の反応から診断する方法							
テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4]微生物学, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布								

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進		単位	12	時間	285
科目	栄養と生活		単位	1	時間	30	進度	1年次後期
目的	生体を維持するために不可欠な栄養について知り、健康を支える食生活や人体の機能、疾病の成り立ちやその回復に適した食事療法について学ぶ							
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験		講師	
学習目標			授業内容					管理栄養士 (病院で19年の実務経験有)
健康に生活するうえで重要な食生活を理解する			1.健康と栄養 2.日常生活と栄養 3.食物と栄養 4.ライフステージと健康教育 1)母性の栄養 2)乳幼児期の栄養 3)学童期の栄養 4)思春期の栄養 5)成人期の栄養 6)老年期の栄養					
臨床栄養の基本を理解する			5.臨床栄養の実践 1)病院食の概要 2)呼吸器・脳・神経系 3)消化器系疾患 4)肝臓病 5)循環器系疾患 6)糖尿病 7)腎臓系 8)栄養補給法 9)チーム医療 6.調理実習					
テキスト:わかりやすい 栄養学、ヌーヴェル・ヒロカワ 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法、医学書院 新食品成分表、とうほう								

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進			単位	12	時間	285
科目	薬理学	単位	1	時間	30	進度	1年次後期		
目的 薬物の作用・効果・性質を理解し、薬物が生体に及ぼす影響、病態に応じた薬物療法のあり方を学ぶ									
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験			講師	
学習目標		授業内容							
人体への薬物のほたらきかけや薬物への生体側の反応を理解する		1.薬理学とは 1)薬物治療の日ざすもの 2)薬物作用 3)投与方法 4)薬効因子							
治療に伴う薬物の作用・副作用を理解し、主要となる薬物治療の基礎的知識を理解する		2.抗感染症薬 3.抗がん薬 4.免疫治療 1)免疫抑制薬 2)免疫増強薬 3)予防接種薬 5.抗アレルギー薬・抗炎症薬 1)抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2)炎症と抗炎症薬 3)関節リウマチ治療薬 4)痛風治療薬 6.末梢神経に作用する薬 1)交感神経作用薬 2)副交感神経作用薬 3)筋弛緩・局所麻酔薬 7.中枢神経に作用する薬 1)全身麻酔薬 2)催眠薬・抗不安薬 3)抗精神病薬 4)抗うつ薬 5)パーキンソン症候群治療薬 6)抗てんかん薬 7)麻薬性鎮痛薬 8.心臓・血管系に作用する薬 1)降圧・利尿薬 2)抗狭心症治療薬 3)強心薬・抗不整脈薬 4)高脂血症治療薬 5)血液に作用する薬物 9.呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬 10.物質代謝に作用する薬 1)ホルモンおよびホルモン拮抗薬 2)治療薬としてのビタミン 11.その他の薬 1)皮膚科・眼科用薬 2)救急に用いられる薬物 3)漢方薬 4)消毒薬 12.看護業務に必要な薬の知識 1)薬液の単位 2)薬液濃度の計算方法							
テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学, 医学書院 参考書:今日の治療薬, 南江堂									

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進			単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅰ(病理学総論)	単位	1	時間	15	進度	1年次後期		
目的 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を学ぶ									
方法	講義		評価方法		筆記試験			講師	
学習目標		授業内容							
病因、病理的变化 の特徴を理解する		1.病理学の概要 1)病理学の目的 2)死体解剖保存法と病理解剖の意義 3)病理学検査 2.退行性変化 1)萎縮・変性・壊死・アポトーシス 2)個体死 3.進行性変化 1)肥大・再生・過形成・化生 2)肉芽組織と組織修復 4.循環障害 1)虚血・充血・うっ血・出血 2)血液凝固障害 3)梗塞 4)心不全 5.代謝障害 1)脂質代謝異常 2)糖質代謝異常 3)タンパク質代謝異常 4)核酸代謝異常 6.免疫機構の異常 1)アレルギー反応 2)免疫不全症 3)自己免疫疾患 7.炎症 1)炎症とは 2)急性炎症 3)慢性炎症 8.腫瘍 1)腫瘍とは 2)良性腫瘍 3)悪性腫瘍 9.奇形と先天異常 1)染色体の異常 2)催奇形因子と臨界点 3)単体奇形 4)二重体					医師 医学博士		
テキスト:テキストは指定せず、内容に合わせた講義資料及び演習問題を作成し配布する 参考書:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学. 医学書院									

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅱ(呼吸器・循環器)	単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期
目的	呼吸器や循環器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
呼吸器(14時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
呼吸機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1) 呼吸困難 2) 咳嗽・喀痰・血痰 3) 咯血 4) チアノーゼ 5) 喘鳴 6) 呼吸の異常						医師 (総合病院で19年、診療所で2年の実務経験有)
検査と治療・処置の方法を理解する	2. 検査 1) 胸水検査 2) 画像診断 3) 内視鏡検査 4) 生検 5) 呼吸機能検査 6) 血液検査、動脈血液ガス分析 3. 治療・処置 1) 吸入療法 2) 酸素療法 3) 人工呼吸療法 4) 胸腔ドレナージ 5) 呼吸器外科の手術 6) 薬物療法						
呼吸機能障害の主な疾患を理解する	4. 疾患 1) 感染症 2) 間質性肺疾患 (1) 肺炎 (2) 塵肺 3) 気道疾患 (1) 喘息 (2) 慢性閉塞性肺疾患 4) 肺血栓塞栓症 5) 呼吸不全 (1) 過換気症候群 (2) 睡眠時無呼吸症候群 6) 肺腫瘍						
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器, 医学書院							
循環器(16時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
循環機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1) 胸痛 2) 浮腫 3) チアノーゼ 4) ショック						大学特任教授 医師 (総合病院で42年の実務経験有)
検査と治療・処置の方法を理解する	2. 検査 1) 心電図 2) 胸部X線検査、核医学検査、コンピュータ断層撮影 3) 心臓超音波 4) 心臓カテーテル法 5) 血行動態モニタリング 6) 動脈血ガス分析 3. 治療・処置 1) 薬物療法の基本 2) 心臓カテーテル治療 3) ペースメーカー治療 4) 手術療法						
循環機能障害の主な疾患を理解する	4. 疾患 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 弁膜症 6) 心筋疾患 7) 動脈系疾患 (1) 大動脈瘤 (2) 大動脈解離 (3) 閉塞性動脈硬化症 8) 静脈系疾患 9) リンパ系疾患						
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器, 医学書院							
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器, 医学書院 参考書: 成人看護学 成人看護技術, 南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進			単位	12	時間	285	
科目	疾病論Ⅲ(消化器)		単位	1	時間	15	進度	1年次後期		
目的	消化器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ。									
方法	講義		評価方法	筆記試験				講師		
学習目標		授業内容							大学教授 医師 (総合病院で26年の 実務経験有)	
消化機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する		1. 主な症状 1) 嚥下困難 2) 嘔吐 3) 腹痛 4) 吐血・下血 5) 下痢 6) 便秘 7) 腹水 8) 黄疸 9) 肝性脳症								
検査と治療・処置の方法を理解する		2. 検査 1) 肝機能検査 2) 超音波検査 3) 内視鏡検査 4) 肝生検 5) 放射線検査 3. 治療・処置 1) 薬物療法 2) 食事療法 3) 手術療法 4) 放射線療法								
消化機能障害の主な疾患を理解する		4. 疾患 1) 食道の疾患 (1) 食道がん (2) 胃食道逆流症 2) 胃・十二指腸疾患 (1) 胃・十二指腸潰瘍 (2) 胃がん 3) 腸および腹膜疾患 (1) 腸炎 (2) 虫垂炎 (3) イレウス (4) ポリープ (5) 結腸がん・直腸がん (6) 肛門疾患 4) 肝臓・胆嚢の疾患 (1) 肝炎 (2) 肝硬変 (3) 門脈圧亢進症 (4) 肝がん (5) 胆石症 (6) 胆嚢胆管炎 (7) 胆嚢がん 5) 膵臓の疾患 (1) 膵炎 (2) 膵臓がん								
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器, 医学書院 参考書: 成人看護学 成人看護技術, 南江堂										

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進			単位	12	時間	285	
科目	疾病論Ⅳ(運動器)		単位	1	時間	15	進度	1年次後期		
目的	運動器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ									
方法	講義		評価方法	筆記試験				講師		
学習目標			授業内容							
運動機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する			1.主な症状 1)疼痛 2)形態の異常 3)関節運動の異常 4)神経・筋の障害 5)異常歩行または跛行						医師 (総合病院で6年、診療所で46年の実務経験有)	
診断・検査と治療・処置の方法を理解する			2.診断の方法 1)問診・視診・触診 2)肢位または姿勢 3)計測 3.検査 1)画像検査 2)骨密度の測定 4.治療・処置 1)保存的治療 2)手術療法 3)理学療法と作業療法 4)義肢と装具							
運動機能障害の主な疾患を理解する			5.疾患 1)外傷性の運動器疾患 (1)骨折 (2)脊髄損傷 (3)アキレス腱断裂 2)内因性の運動器疾患 (1)先天性疾患 (2)変形性関節症 (3)関節リウマチ 3)骨腫瘍 4)代謝性骨疾患 5)筋および腱の疾患 6)神経の疾患 7)上肢および上肢帯の疾患 8)脊椎の疾患							
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器. 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護後術. 南江堂										

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進			単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅴ(脳神経)		単位	1	時間	15	進度	1年次後期	
目的	脳神経の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ。								
方法	講義		評価方法	筆記試験			講師		
学習目標			授業内容						
脳神経障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)意識障害、高次脳機能障害 2)運動・感覚機能障害 3)反射性運動の障害 4)頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 5)バイタルサインの変化 6)髄膜刺激症状 7)頭痛						【9/15時間】 医師 医学博士 (総合病院で28年の実務経験有)		
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)神経心理学的検査、診察法 2)画像診断 3)脳波検査 4)髄液検査 3.治療・処置 1)外科的治療法 2)薬物療法						【6/15時間】 医師 (総合病院で24年の実務経験有)		
脳神経機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)脳血管障害 2)脳腫瘍 3)頭部外傷 4)ギラン・バレー症候群 5)重症筋無力症 6)筋ジストロフィー 7)筋萎縮性側索硬化症 8)パーキンソン病 9)クロイツフェルト・ヤコブ病 10)てんかん 11)認知症								
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳・神経, 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護後術, 南江堂									

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論VI(血液、内分泌、アレルギー)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	血液・造血器、内分泌・代謝系統、及び生体防御機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
血液・造血器(10時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
血液・造血機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)貧血 2)白血球増加症 3)白血球減少症 4)リンパ節腫脹・脾腫 5)出血性素因						医師 総合病院(血液内科) 等46年の実務経験
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)末梢血検査 2)骨髓穿刺・生検 3)症候とその病態生理 3.治療・処置 1)化学療法 2)補助療法 3)移植療法 4)支持療法						
血液・造血機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)赤血球系の異常 2)白血球系の異常 3)造血器腫瘍 4)出血性疾患						
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器, 医学書院							
内分泌・代謝(14時間)							
方法	講義	評価方法	テスト	講師			
学習目標	授業内容						
内分泌・代謝機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)やせ 2)肥満 3)皮膚の異常 4)神経・筋症状 5)眼症状 6)甲状腺腫大 7)無月経 8)浮腫						大学教授・医師 総合病院(内科・消化器科)等29年の実務経験
検査の方法を理解する	2.検査 1)ホルモンの血中濃度測定 2)ホルモン負荷試験 3)画像検査 4)代謝疾患の検査						
内分泌・代謝機能障害の主な疾患を理解する	3.疾患 1)視床下部-下垂体疾患 2)甲状腺疾患 3)副甲状腺疾患 4)副腎疾患 5)糖尿病 6)脂質異常症 7)肥満症 8)尿酸代謝異常						
系統テキスト:看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝, 医学書院							
アレルギー・膠原病(6時間)							
方法	講義	評価方法	テスト	講師			
学習目標	授業内容						
生体防御機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)アレルギー反応 2)アナフィラキシー 3)発熱 4)リウマチ性症状 5)皮膚粘膜症状 6)内臓の炎症性症状						医師 総合病院(内科アレルギー科)等42年の実務経験
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)血液検査・スキンテスト 2)免疫学的検査 3.治療・処置 1)薬物療法 2)減感作療法						
生体防御機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)膠原病 2)感染症 (1)関節リウマチ (1)インフルエンザ (2)全身性エリマトーデス (2)HIV感染症と日和見感染症 (3)シェーグレン症候群 (4)ベーチェット病						
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅶ(腎・泌尿器、女性生殖器)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	腎・泌尿器の機能と性・生殖機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
腎・泌尿器(20時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
腎・泌尿器の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1)尿の異常 2)水と電解質の異常 (1)浮腫 (2)脱水 3)高血圧 4)血液の異常 5)尿毒症 6)疼痛						医師 総合病院(泌尿器科) 等15年、診療所(腎泌尿器)6年の実務経験
検査と治療・処置の方法を理解する	2. 検査 1)尿検査 2)腎機能検査 3. 治療・処置 1)手術療法 2)排尿管理 3)尿路機能検査 4)画像検査 3)透析療法 4)腎移植						
腎・泌尿器の機能障害の主な疾患を理解する	4. 疾患 1)腎不全と慢性腎臓病 2)原発性糸球体腎炎 3)全身性疾患による腎障害 4)尿路・性器の感染症 5)尿路の通過障害と機能障害 6)尿管結石症 7)尿路・性器の腫瘍 8)男性不妊症、勃起障害 テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書						
女性生殖器(10時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
女性生殖器の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1)出血 2)帯下 3)疼痛 4)下腹部膨満 5)外陰部痒痒感 6)排尿障害 7)自律神経症状、不定愁訴 8)リンパ浮腫						[4/10時間] 医師 総合病院(産婦人科) 7年、診療所(産婦人科)26年の実務経験
検査と治療・処置の方法を理解する	2. 検査 1)理学的検査 2)病理検査 3)細菌・ウイルス検査 4)画像検査 5)その他の検査 3. 治療・処置 1)診察 2)薬物療法 3)手術療法						[6/10時間] 医師 総合病院(婦人科)13年、診療所(婦人科)26年の実務経験
女性生殖器の機能障害の主な疾患を理解する	4. 疾患 1)外陰の疾患 2)膣の疾患 3)子宮の疾患 4)卵管・卵巣の疾患 5)乳房の疾患 6)機能性疾患 (1)月経異常・月経随伴症状 (2)更年期障害 (3)不妊症 7)性感染症 テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9]女性生殖器、医学書						
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9]女性生殖器、医学書院 参考書: 成人看護学 成人看護技術、南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進			単位	12	時間	285	
科目	疾病論Ⅶ(感覚器)		単位	1	時間	15	進度		2年次前期	
目的	感覚機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ									
皮膚(6時間)										
方法	講義		評価方法		筆記試験		講師			
学習目標		授業内容								
皮膚の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)発疹 2)痒疹 3)皮膚の老化								医師 総合病院(皮膚科)等 18年、診療所(皮膚科)17年の実務経験	
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)皮膚科的検査法 2)病原微生物の検査法 3)病理組織検査法 3.治療・処置 1)全身療法 2)外用療法 3)手術療法 4)光線療法 5)レーザー療法									
皮膚の機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)アトピー性皮膚炎 2)物理・化学的皮膚障害 3)感染症 4)内臓疾患に伴う皮膚病変									
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12]皮膚, 医学書院										
眼(6時間)										
方法	講義		評価方法		筆記試験		講師			
学習目標		授業内容								
視機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)視機能に関連した症状 2)視機能に関連しない症状								医師 総合病院(眼科)13年、診療所(眼科)25年の実務経験	
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)視力検査 2)眼底、眼圧検査 3)視野、色覚、調節力検査 3.治療・処置 1)点眼法 2)手術療法									
視機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)網膜・硝子体の疾患 2)水晶体の疾患 3)緑内障									
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13]眼, 医学書院										
歯・口腔(6時間)										
方法	講義		評価方法		筆記試験		講師			
学習目標		授業内容								
歯・口腔の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)疼痛 2)出血 3)開口障害 4)咀嚼・嚥下障害								歯科医師 総合病院(歯科)1年、診療所(歯科)4年の実務経験	
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)口腔内検査 2)画像検査 3)歯科・口腔外科的検査 3.治療・処置 1)齲蝕の治療 2)歯周囲疾患の治療 3)外科治療 4)矯正治療									
歯・口腔の機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)齲蝕 2)歯周組織の疾患 3)口腔粘膜の疾患 4)口腔領域の腫瘍 5)歯と顎骨の外傷 6)顎関節の疾患 7)唾液腺の疾患									
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15]歯・口腔, 医学書院										

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進			単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅸ(放射線・リハビリ・手術)		単位	1	時間	30	進度	2年次前期	
目的	疾病の回復を促進する特殊治療の原理と、障害への適応と社会復帰への看護に必要なリハビリテーション看護を学ぶ								
放射線治療(6時間)									
方法	講義		評価方法		筆記試験			講師	
学習目標		授業内容							
放射線の特徴と治療についての基礎的知識を理解する		1.放射線の医療への応用 1)放射線の種類と性質 2)放射線の医学利用 3)健康影響とその管理 4)放射線診療と看護師の役割						医師 総合病院(放射線科) 21年、病院(内科)20年の実務経験	
主な放射線による診断と検査時の基礎的知識を理解する		2.放射線診断と看護 1)X線診断 2)血管撮影 3)MRI 4)超音波 5)核医学							
		テキスト:新体系看護学 別巻 放射線診療と看護、メヂカルフレンド社							
リハビリテーション(8時間)									
方法	講義		評価方法		筆記試験			講師	
学習目標		授業内容							
リハビリテーションの基本的考え方を理解する		1.リハビリテーションとは 1)リハビリテーションの定義と理念 2)障害者の実態 3)障害者の分類と構造 4)リハビリテーションの分野						理学療法士 病院(リハビリテーション科)16年の実務経験	
リハビリテーション医療は専門職種の協働によって成り立つことを理解する		2.リハビリテーション医療システム 1)チームメンバー 2)チームワーク							
リハビリテーション看護の基礎的知識を理解する		3.リハビリテーション看護 1)リハビリテーション看護の確立 3)障害に対する態度 2)リハビリテーション看護の機能 4)リハビリテーション看護の方法論 テキスト:系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護、医学書院							
手術療法(16時間)									
方法	講義		評価方法		筆記試験			講師	
学習目標		授業内容							
外科的治療によりおこる生体反応の基礎知識を理解する		1.手術侵襲と生体の反応 1)手術侵襲とは 2)侵襲に対する生体反応 2.麻酔法 1)麻酔の種類 4)術後管理 2)術前管理 5)全身麻酔 3)術中管理 6)局所麻酔						医師 医学博士 総合病院(外科)12年、診療所(外科・麻酔科)23年の実務経験	
外科的な処置の基本手技、創傷管理の基本と実際の処置を理解する		3.外科診療に必要な基本手技 縫合と抜糸 4.創傷管理							
術後疼痛のメカニズムと術後の合併症を理解し、術後の管理方法を理解		5.術後の回復を促進するための看護 6.術後合併症の発生機序 7.おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応 テキスト:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院							
		テキスト:新体系看護学 別巻 放射線診療と看護、メヂカルフレンド社 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護、医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術、南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位	6	時間	105	
科目	総合医療論		単位	2	時間	30	進度	1年次後期
目的	多様化する保健・医療・福祉の活動について、医療現場における倫理的課題をも含め総合的に学ぶ							
方法	講義		評価方法	筆記試験			講師	
学習目標		授業内容						講師
保健・医療に携わる者として基本となる総合医療の概略と科学技術の発展によってもたらされた影響について理解する		1.医療の歩みと医療観の変遷 2.科学的技術の進歩と現代社会の最前線 3.現代医療の新たな課題 1)先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 2)生命倫理学と臨床倫理学の展開 3)医療不信から「賢い患者」へ 4)インフォームドコンセントと医療情報の開示 4.医療を見つめ直す新しい視点 1)臨床疫学－医療における合理的判断 2)患者の安全 3)医療の管理と評価 4)これからの先端医療開発 5)情報化社会と医療						
方法	講義		評価方法	筆記試験			講師	
学習目標		授業内容						講師
これからの望ましい医療のあり方と医療に必要な担い手の資質を理解する		1.医療と看護の原点－病と癒し 1)命について考える 2)健康とは 3)病の体験 4)癒しの行為と癒しの知 5)チーム医療とマネジメント 2.私たちの生活と健康 1)もしも私たちが病気やけがをしたら 2)私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3)疾病の一次予防と健康増進 4)少子高齢化社会と世代間のきずな 5)障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 6)心の健康と精神医療 3.保健・医療・福祉の潮流 1)新時代の保健・医療の担い手 2)プライマリケアの新たな展開 3)医療におけるケアの視点 4)地域包括システムの新しい展開 5)保健・医療・福祉システムと地域住民の役割						
テキスト:系統看護学講座 別巻 総合医療論, 医学書院 参考書:国民衛生の動向 適宜関係図書紹介 資料配布								

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度		単位	6	時間	105
科目	地域保健論		単位	2	時間	30	進度	1年次後期
目的 公衆衛生の基礎的内容や生活者の健康増進に対応した法制度と保健活動がどのように進められているかを学ぶ								
方法	講義		評価方法	筆記試験				講師

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位	6	時間	105
科目	社会福祉論	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	社会保険の理念と基本的な考え方について理解し、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						短期大学教授 社会福祉学修士
社会保障と社会福祉の概念を理解する	1.社会福祉の理念 1)社会福祉の意味 2)社会福祉の定義 3)社会福祉の構造 4)社会福祉における住民参加と社会福祉運動 5)社会福祉と看護の関連 2.生活問題の展開と社会福祉の基本的動向						
社会保険制度の歴史的沿革及び実態、今後の課題を理解する	3.社会保障制度と社会福祉制度 1)社会保障制度 2)社会福祉の法制度 3)社会福祉の組織と管理 4.医療保障 5.介護保障 6.所得保障 7.公的扶助 8.社会福祉の分野とサービス						
医療・看護と福祉の連携の重要性を理解する	9.社会福祉実践と医療・看護 1)社会福祉援助の検討課題 2)連携の重要性 3)社会福祉実践と医療・看護との連携						
テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院 参考書:国民衛生の動向							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位	6	時間	105
科目	関係法規	単位	1	時間	15	進度	1年次後期
目的	保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解し、看護職としての職責を正しく遂行するために必要な法規を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						
関係法規を十分に理解するための基礎的知識を学ぶ	1.法律の基礎知識 1)法とは 2)衛生法 3)厚生行政						薬剤師
医療に携わるものにとって最も重要な法規を理解する	2.医事法規 1)保健師助産師看護師法 2)看護師等の人材確保の促進に関する法律 3)医師法 4)薬剤師法 5)診療放射線技師法 6)臨床検査技師、衛生検査技師に関する法律 7)理学療法士及び作業療法士 3.薬事法規 1)薬事法 2)薬剤師法 3)毒物及び劇物取締法 4)麻薬及び向精神薬取締法 5)あへん法 6)人麻取締法 7)覚せい剤取締法 8)その他の薬事法規						
国民の健康の保持・増進を目的とする関係法規を理解	4.保健衛生法 1)健康増進法 2)地域保健法 3)母体保護法 4)精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 5)精神保健福祉士法 6)母子保健法 7)老人保健法 8)介護保険法 9)予防接種法 10)結核予防法 11)栄養士法 12)健康保険法 13)国民健康保険法 5.労働関連法 1)労働基準法 2)労働条件の原則 3)育児・介護休業法						
テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令, 医学書院 参考書:看護学生のための法学, 日本看護協会出版社							

専門分野 I

分野	専門分野 I		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300	
科目	基礎看護学概論(看護の理解)		単位	1	時間	30	進度	1年次前期			
目的	看護の変遷や看護の理念をふまえて、看護の基本概念を考えることにより現代看護における看護の機能と役割を学ぶ。また健康の概念を理解し、看護とは何かについて考える姿勢を養い、自己の看護観を養う										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師			
学習目標			授業内容								
看護の概念や看護の対象を理解する			1.看護とは 1)看護の本質 2)看護の役割と機能 3)看護の継続性と情報共有 2.看護の対象の理解 人間とは							本校専任教員(28年)看護師(総合病院で11年の実務経験有)	
健康の概念を理解し、生活や環境が健康にどのように影響しているのか学ぶ			3.健康のとらえ方と国民の健康状態 1)健康とは 2)社会の変遷と健康観の変化 3)人々の生活と健康に関する統計 4)看護職者として健康指標を把握する								
看護の変遷を学び、看護の概念を理解する			4.看護の提供者 1)職業としての看護 2)看護職の養成制度と就業状況 3)看護職者の教育とキャリア開発								
職業倫理としての看護と倫理を理解する			5.看護における倫理 1)現代社会と倫理 2)医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3)看護実践における倫理問題への取り組み 4)現代社会と倫理								
看護における教育と指導の目的と意義を理解する			6.教育・指導 1)看護における教育・指導とは 2)健康に生きることを支える教育・指導 3)健康状態の変化に伴う教育・指導 4)看護のなかに含まれる教育・指導								
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論, 医学書院											
参考書:国民衛生の動向 実践に生かす看護倫理19 看護覚え書き, 現代看護の探求者たち日本看護協会出版会, 看護の基本となるもの											

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
单元名	看護の基本となる技術(技術概論 安全・安楽 コミュニケーション技術)						
目的	看護における技術の考え方とすべての看護技術に共通する基本技術を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ						
技術概論(6時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
看護における技術の考え方を理解する	1. 看護技術を学ぶにあたって 1)技術とはなにか 2)看護技術の特徴 3)看護技術の基本原理 日常的手洗い テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院						
安全・安楽(14時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
安全な援助技術の必要性を理解する	1.看護における安全・安楽 1)安全・安楽の意義 2)安全対策の基本 2. 事故防止のための対策 1)誤薬防止 2)チューブ類の予定外抜去防止 3)誤認防止 4)転倒転落防止 5)薬剤・放射線暴露防止 3. 安全・安楽で効果的な動きのための技術 1)ボディメカニクス 2)重心と安定性 3)作業姿勢と作業域 4)力の効率 5)よい姿勢 6)安楽な体位の保持 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院						
コミュニケーション技術(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
コミュニケーションの意義を学び、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度と看護における相互作用を理解する	1. コミュニケーションとは 1)コミュニケーションの意義 2)コミュニケーションの基本技術 2. 患者を支えるためのコミュニケーション技術 1)プロセスレコード 2)ロールプレイング 3)カンファレンス 3. コミュニケーション演習 テキスト:看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング						
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院							
参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院 看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング							

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ		教育内容		基礎看護学		単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅱ		単位	1	時間	30	進度	1年次前期		
単元名	看護の基本となる技術(スクリーニングの技術 バイタルサイン)									
目的	すべての看護技術に共通する基本技術を学ぶ。安全、安楽な技術を提供するために対象の概要の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ									
スクリーニングの技術(14時間)										
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師	
学習目標		授業内容								
対象の全体像を把握するための情報収集の基礎を理解する		1. 対象の健康状態を捉える手段 1)意義・目的 2)状態を捉える手段 3)対象の状態を捉える際の留意点 4)全身状態・全体印象の把握 5)健康歴の聴取							本校専任教員(3年)看護師(病院で6年の実務経験有)	
身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを習得する		2. 身体計測 1)計測の目的 2)計測を行う際の留意事項 3)計測の実際 (1)身長 (2)体重 (3)腹囲 (4)視力・視野								
バイタルサイン(16時間)										
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師	
学習目標		授業内容								
生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する		1. バイタルサインの観察とアセスメント 1)バイタルサインを観察する目的 2)体温 (1)体温維持に関する基礎知識 (2)体温測定の実際 (3)アセスメント 3)脈拍 (1)脈拍に関する基礎知識 (2)脈拍測定の実際 (3)アセスメント 4)呼吸 (1)呼吸に関する基礎知識 (2)呼吸の観察方法 (3)アセスメント 5)血圧 (1)血圧に関する基礎知識 (2)血圧の測定方法 (3)アセスメント 6)意識に関する基礎知識と観察の方法 (1)意識に関する基礎知識 (2)意識の観察の実際 (3)アセスメント 2. 測定の実際 1)測定機器の取り扱い 2)測定結果とアセスメントの記録方法							本校専任教員(3年)看護師(病院で6年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院										

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅲ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期
単元名	看護の基本となる技術(看護研究Ⅰ)						
目的	科学的思考のプロセスの学習をもとに、系統的看護を展開する方法を学ぶ						
前期(14時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					
看護過程の意義とプロセスを理解する	1.看護過程とは 1)看護過程の意義 2)問題解決過程とはなにか 3)看護過程と問題解決法 4)看護過程とクリティカルシンキング 2.アセスメント 1)情報収集 2)データの分類・整理・分析 3.看護上の問題(診断) 1)特定された看護上の問題 2)看護診断 3)問題の優先順位 4.看護計画 1)目標の設定 2)計画の立案 5.実施 実施の流れ 6.評価 1)評価の方法 2)評価結果・修正 7.看護記録 1)看護記録とは 2)記載・管理 3)構成 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ.医学書院					本校専任教員(11年)看護師(病院で16年の実務経験有)	
後期(16時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験・レポート		講師	
学習目標		授業内容					
看護研究の基礎的知識を理解する	1.看護研究とは 1)看護研究の目的 2)看護研究の意義 2.看護研究の方法 1)研究テーマの絞り方 2)文献検索と検討 3)文献カードの作成 4)研究計画書作成 5)論文の書き方 6)研究論文の評価 テキスト:系統看護学講座 別巻 看護研究.医学書院					保健師 看護師(総合病院で6年の看護師実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ.医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究.医学書院 参考書:ひとりで学べる看護研究.照林社							

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学		単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅳ	単位	1	時間	30	進度	2年次後期	
単元名	看護の基本となる技術(看護研究Ⅱ)							
目的	科学的思考・問題解決的思考をもとに、看護を多角的視点から深く考察し質の高い看護を追究する能力を養う							
前期(16時間)								
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験		講師	
学習目標		授業内容						
健康障害を持つ対象の状態に応じた看護過程の展開方法を理解する		1. 事例を用いて看護の展開を行う 1)アセスメント 情報から得たデータの分類・整理・分析 2)看護上の問題(診断)の抽出 3)看護計画の立案 (1)目標の設定 (2)計画の立案 4)記録の書き方 (1)計画の修正 (2)看護要約 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院						本校専任教員(11年)看護師 病院(消化器内科、外科、呼吸器内科、在宅診療など)15年の実務経験
後期(14時間)								
方法	講義・演習		評価方法		発表・レポート		講師	
学習目標		授業内容						
研究の過程を体験することにより研究的態度を習得する		1.看護研究演習 1)ケーススタディーとは 2)ケース・スタディーの目的 3)看護研究におけるケース・スタディーの位置づけ 4)倫理的配慮 5)ケース・スタディーの構成とその内容 6)研究計画書作成 7)研究の発表と評価 テキスト:系統看護学講座 別巻 看護研究, 医学書院						本校専任教員(11年)看護師 病院(消化器内科、外科、呼吸器内科、在宅診療など)15年の実務経験
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究, 医学書院 参考書: ひとりで学べる看護研究, 照林社 看護のためのわかりやすいケーススタディーの進め方, 照林社								

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅴ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期
単元名	生活を支える技術(生活環境 食べる 排泄)						
目的	基本的欲求を満たす基本的日常生活援助技術を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ						
生活環境(10時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					
対象の基本的欲求を理解し、日常生活援助の基礎知識、技術、態度を習得する	1.療養生活の環境 2.病室の環境のアセスメントと調整 1)病室・病床の選択 2)温度・湿度 3)光と音 3.病床環境のアセスメントと整備 1)病床を整える 2)病床を保つ 3)ベッド周囲の環境整備 4)色彩 5)空気の清浄性について 6)人的環境					本校専任教員(2年)看護師(総合病院で2年、病院で21年の実務経験有)	
食べる(10時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					
対象の基本的欲求を理解し、食事援助の基礎知識、技術、態度を習得する	1.食事の基礎知識 1)人間にとって食べることの意味 2)看護技術としての食事援助の位置付け 2.栄養・食行動に関するアセスメント 1)栄養状態 2)水分・電解質のバランス 3)摂食能力 4)嚥下機能 5)食欲および摂食行動 6)食生活変更の必要性、対象者の認識・行動 3.食事援助 1)療養における食事内容の調整 2)食事介助・食事セッティング 3)食後のケア(口腔ケア含む) 4)非経口的栄養摂取(経管栄養)					本校専任教員(4年)看護師(病院で5年の実務経験有)	
排泄(10時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					
対象の基本的欲求を理解し、排泄援助の基礎知識、技術、態度を習得する	1.排泄援助の基礎知識 1)排泄の意義 2)看護師が行う排泄の援助 3)排泄に関するアセスメント 2.排泄援助の基本的姿勢 1)環境を整える 2)自然排泄を促す援助 3)清潔に留意する 3.排泄用具を用いた排泄行動に応じた援助 1)尿器・便器の使用 2)おむつ交換 3)陰部洗浄 4.排尿障害時の援助 1)導尿 2)膀胱留置カテーテル 5.排便障害時の援助 1)腹部マッサージ 2)浣腸 3)摘便					本校専任教員(18年)看護師(病院で6年、診療所で4年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院 成人看護学 成人看護技術. 南江堂							

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅵ	単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期
单元名	生活を支える技術(身体の清潔を保つ 姿勢を保つ・活動を整える)						
目的	基本的欲求を満たす基本的日常生活援助技術を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ						
清潔(15時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					
対象の基本的欲求を理解し、清潔援助の基礎知識、技術、態度を習得する		1.清潔援助の基礎知識 1)清潔保持の意義・目的 2)清潔援助の目的および方法の選択 3)清潔援助の留意点 2.清潔援助の実際とアセスメント 1)全身清拭 2)洗髪 3)手浴・足浴 4)整容 3.衣生活援助の基礎知識 1)衣服を用いることの意義 2)熱産生と熱放散 3)衣服気候 4)病衣の選び方 4.病衣・寝衣の交換の実際とアセスメント					本校専任教員(2年)看護師(総合病院で2年、病院で21年の実務経験有)
姿勢・活動(15時間)							
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験		講師	
学習目標		授業内容					
対象の基本的欲求を理解し、姿勢・活動援助の基礎知識、技術、態度を習得する		1.活動に関する基礎知識 1)生活リズム 2)身体を動かすことの意義 3)活動を阻害する因子 4)廃用症候群 2.姿勢と各体位の特徴 1)体位変換 2)関節可動域訓練 3.移動・移乗・移送 1)アセスメントと方法の選択 2)移動の実際 3)移乗・移送の実際 (1)車椅子 (2)ストレッチャー 4.姿勢・体位の援助に関する安全 1)廃用症候群予防 2)褥創形成の予防 3)転倒・転落の予防 4)安全のボディメカニクス 5)キネステティック 5.睡眠・休息の基礎知識 1)睡眠・休息の意義 2)睡眠障害の要因 3)睡眠障害のアセスメント 4)睡眠・休息の援助					【13/15時間】 本校専任教員(4年)看護師(病院で5年の実務経験有) 【2/15時間】 理学療法士(病院で17年の実務経験有)
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院							

専門分野 I

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論Ⅶ	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
単元名	診療補助技術(検査・治療 電法・包帯・穿刺 感染)						
目的	診療に伴う基本的援助技術と診療を受ける対象を理解し看護の方法を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ						
検査・治療(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
検査・治療に伴う対象の心理を理解し、診療補助に必要な知識・技術・態度を理解する	1.検査・治療における看護師の役割 1)検査の意義と目的 2)検査の方法と種類、検体の採取とその取り扱い (1)血液検査 (3)便検査 (2)尿検査 (4)喀痰検査 2.診察の介助 3.生体検査 (1)心電図検査 (5)内視鏡検査 (2)X線撮影 (6)超音波検査 (3)コンピュータ断層撮影 (7)肺機能検査 (4)磁気共鳴画像 (8)核医学検査 4.医療機器の原理と実際 5.酸素吸入療法の基礎知識 6.吸引の基礎知識 7.排痰ケアの基礎知識 8.吸入援助の基礎知識 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院						本校専任教員(18年)看護師(病院6年、診療所で4年の実務経験有)
電法・包帯・穿刺(8時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
電法・創傷管理・穿刺時の援助技術を習得する	1.電法の意義と援助の実際 冷電法・温電法 2.創傷管理の基礎知識 1)包帯法の目的と種類、方法の実際 2)創傷部位の洗浄 3.穿刺の意義と目的 1)腰椎穿刺 3)腹腔穿刺 2)胸腔穿刺 4)骨髄穿刺 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院						本校専任教員(18年)看護師(病院で6年、診療所で4年の実務経験有)
感染(12時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
感染予防に必要な知識・技術を理解する	1.感染防止の基礎知識 2.標準予防策 1)手洗い・手指消毒 3)周囲環境対策 2)防護用具 3.感染経路別予防策 1)飛沫感染防止策 3)接触感染防止策 2)空気感染防止策 4)隔離法 4.洗浄・消毒・滅菌 1)洗浄 2)消毒と滅菌 5.無菌操作 無菌操作の実際 (滅菌包装の開き方、鉗子・鑷子の取り扱い、滅菌手袋の着用) 6.感染性廃棄物の取り扱い 7.カテーテル関連血流感染対策 8.針刺し事故防止 テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院						本校専任教員(24年)看護師(病院で23年の実務経験有)
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 成人看護学 成人看護技術, 南江堂							

専門分野Ⅰ

分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学			単位	11	時間	300	
科目	基礎看護学方法論Ⅶ	単位	1	時間	15	進度	1年次後期			
単元名	診療補助技術(与薬)									
目的	診療に伴う基本的援助技術と診療を受ける対象を理解し看護の方法を学ぶ。対象に安全、安楽な技術を提供するために、対象の理解と看護実践に必要な基本技術を学ぶ									
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験		講師			
学習目標		授業内容								
与薬における看護の役割と援助の方法を学ぶ		1.与薬の基礎知識 2.経口与薬 3.吸入 4.点眼 5.経皮的与薬 6.直腸内与薬 7.注射 1)注射の基礎知識 2)注射の準備 3)注射の実施法と実際 (1)皮下注射 (2)皮内注射 (3)筋肉内注射 (4)静脈内注射 (5)輸液ポンプ (6)中心静脈カテーテル留置 8.輸血管理 1)基礎知識 2)援助の実際							本校教員 看護師(病院で17年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院										

専門分野 I

分野	専門分野 I	教育内容	基礎看護学	単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論IX	単位	1	時間	15	進度	1年次後期
単元名	臨床看護の実践(フィジカルアセスメント)						
目的	健康問題によって生じる各健康レベルの特徴を理解しそれによる生活の変化や各期に現れやすい対象や家族の心理状況を理解し、アセスメントと援助の基本的方法を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						
身体的情報の判断に活用するフィジカルアセスメント技術を理解する	1. フィジカルアセスメントとは フィジカルアセスメントの目的 2. 身体機能のアセスメント 1)視診 2)触診 3)打診 4)聴診 3.呼吸系と循環系のフィジカルアセスメントの実際 1)呼吸音の聴取 2)心音の聴取 3)心電図の取り方・見方 4.消化系のフィジカルアセスメントの実際 1)腹部の聴診 2)腹部の触診 5.感覚系のフィジカルアセスメントの実際 1)眼位の異常 2)眼球運動 3)聴力 4)皮膚知覚 6.運動系のフィジカルアセスメントの実際 徒手筋力測定 7.中枢神経系のフィジカルアセスメントの実際						看護師 看護師(病院で21年、 介護施設で9年の実 務経験有)
テキスト:フィジカルアセスメントガイドブック第2版, 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I, 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院							

専門分野 I

分野	専門分野 I	教育内容	基礎看護学		単位	11	時間	300
科目	基礎看護学方法論 X	単位	1	時間	30	進度	1年次後期	
単元名	臨床看護の実践(臨床看護学総論)							
目的	健康問題によって生じる各健康レベルの特徴を理解しそれによる生活の変化や各期に現れやすい対象や家族の心理状況を理解し、アセスメントと援助の基本的方法を学ぶ							
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験・レポート			講師
学習目標		授業内容						
フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを理解し、事例を用いて援助方法を学ぶ	1. 臨床看護の理解 1)臨床看護の対象 2)経過別に応じた看護 (1)急性期 (2)回復期 (3)慢性期 (4)終末期 2.主要な身体症状のメカニズムと看護 1)浮腫 2)吐気・嘔吐 3)痛み 4)咳嗽・喀痰 5)麻痺 6)発熱 3.治療処置に伴う看護 1)安静療法 2)薬物・輸液療法 3)食事療法 4)手術療法 4.事例を用いて看護過程の展開を実践する 1)健康障害を持つ対象に必要な援助を計画する 2)計画した援助内容を演習で実践する 3)演習で実践した援助内容を評価する						本校専任教員(3年)看護師(病院で6年の実務経験有)	
テキスト:系統看護講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論. 医学書院 参考書:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術. 医学書院 症状別看護過程. 医学書院 成人看護学 成人看護技術. 南江堂								

専門分野 I

【 基礎看護学実習 I 】 1 単位 45 時間 2 年次前期

1. 実習の目的

対象を取り巻く環境を知り、看護師と共に日常生活の援助を経験する

2. 実習目標

- 1) 入院している対象の環境をとらえ、環境調整の必要性とその大切さを考える
- 2) 病棟の援助計画に沿って、看護師と共に日常生活の援助を経験する
- 3) 対象とコミュニケーションをはかり、情報収集の視点を理解する
- 4) 日常生活の援助、対象との関わりから看護について考える
- 5) 看護専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

	内 容	記録用紙
事前学習	実習の課題を明確にして臨む 実習計画表作成	No.1 No.2
	病院・病床の環境について病院見学実習の振り返り、再確認する	見学実習記録用紙
初日・2 日目	①病院・病棟のオリエンテーションを受ける ②病院・病床の環境を観察し、記述する ③看護師と共に行動し、話し方・接し方を見学する ④援助の見学、参加を通して看護師の役割を捉える ⑤対象とコミュニケーションをとり、情報の整理をする ⑥カンファレンスを行い、生活環境について自分の意見を述べる	No.3 No.2・No.8
3 日目～ 5 日目	①環境調整の必要性を考えながら、環境整備を計画し看護師と共に実施する ②看護の視点を持って、不足している情報を追加していく ③援助の見学、参加を通して看護師の役割を考える ④自分の理想とする看護師像を考える ⑤学生間でカンファレンスを行い、援助や対象との関わりについて意見交換をする	No.8 No.3 No.2
6 日目 (最終日)	①環境調整の必要性を考えながら、環境整備を計画し看護師と相談しながら実施する ②看護の視点を持って、不足している情報を追加していく ③自分の理想とする看護師像を明確にする ④最終カンファレンスで実習のまとめをする 最終評価	No.8 No.3 No.2

※記録用紙 No.3 については基礎 I 実習専用の用紙を使用（他は共通用紙）

4. 実習中の注意事項

- 1) 聴く態度・言葉遣いなど相手を尊重した態度をとる
- 2) わからないことはそのままにせず調べたり・質問したりする
- 3) 実習グループとして協力する
- 4) 対象のプライバシーを保持する
- 5) 体調管理をしっかりして実習に臨む

5. 記録の提出について

- 1) 記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
- 2) 登校日には実習担当教員へ提出し、随時添削・指導をもらう
- 3) 実習終了後は、指定された実習記録一式、クリアファイルに入れて提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

専門分野 I

【 基礎看護学実習Ⅱ 】 2単位 90時間 2年次後期

1. 実習の目的

日常生活の援助を実践し、対象に応じた看護方法を理解する

2. 実習目標

- 1) 対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉える
- 2) 受け持ち対象に応じた日常生活の援助を計画し実践する
- 3) 様々な状態の対象に合わせて、安全・安楽に留意して援助する
- 4) 対象の反応をもとに、援助したことを振り返る
- 5) 対象及び家族、医療従事者との関わりを通して、自分の言動の傾向を知る
- 6) 看護専門職として、ふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

		内 容	記録用紙
事前学習		実習の課題を明確にして臨む 行動計画表（初日の計画）作成・週間計画を立てる 事前学習の完成（技術の練習、強化）	No.1 No.2 No.8・10
1 週目	初日	①オリエンテーション ②受け持ち患者への紹介・情報収集	No.2・3・4
	2 日目以降	①対象と話をしたり、看護師と共に援助をしながら情報収集（未充足な部分を見つける） ②援助の必要性を見出す(アセスメント) ③対象の情報やアセスメントはその都度追加・修正する ※同室の患者・家族とのコミュニケーションも図る ※受け持ち以外の患者様の日常生活の援助を看護師とともに経験し、事前学習と比較し対象に合った援助を振り返る。	No.2 No.3・4・5 No.7 No.8
2 週目	登校日	学校に登校し、振り返り・計画の立案	No.4・5・6
	実習日	①1 週目と同様に情報を得ながら、指導者と共に対象に応じた援助を行い、振り返りをする ②受け持ち対象の情報・アセスメントを追加し、全体像を捉える ③受け持ち対象の健康問題を抽出し、それに合った援助を計画する（日々の目標・計画に反映する） ④看護師と共に援助を実施し、その内容を評価・修正する ⑤患者・家族・他職種とのコミュニケーションを図り、その場面を振り返る	No.2 No.3・4・5・6 No.7 No.8 評価表
3 週目	登校日	学校に登校し、振り返り、計画の評価・追加・修正	No.3～8
	実習日	①問題解決のための計画の追加・修正 ②対象の健康問題に沿って計画を追加・修正する ③看護師と共に援助を実施し、その内容を評価・修正する ④他者との関わり場面から、自身の言動の傾向を分析する	No.2 No.3・4・5・6 No.7 No.8
	実習修了後	実習の振り返り	評価表 No.9
記録用紙	No.1 実習課題用紙 No.2 行動計画書（※毎日記入） No.3 情報の分類・整理と分析・解釈 No.4 関連図 No.5 看護上の問題 No.6 受け持ち患者看護計画 No.7 プロセスレコード（週に1枚） No.8 技術の事前学習・援助振り返り No.9 実習振り返り用紙 No.10 事前学習（疾患・治療・看護）		

4. 実習中の注意事項

- 1) 対象のプライバシーを保護する
- 2) 自己の健康管理には十分留意すること
- 3) 実習グループとして協力すること

5. 記録物の提出について

- 1) 記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
- 2) 登校日には実習担当教員へ提出し、随時添削・指導をもらう
- 3) 実習終了後は、指定された実習記録一式を揃え、クリアファイルに入れて提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学			単位	6	時間	180	
科目	成人看護学概論(対象の理解)	単位	1	時間	30	進度	1年次前期			
目的	成人期における健康問題を生活状況の特徴や現代社会の状況から捉え、成人期にある対象の健康保持増進を促進する成人看護の役割について理解する									
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験・レポート		講師			
学習目標		授業内容							本校専任教員(18年)石護師(病院で6年、診療所で4年の実務経験有)	
対象となる大人を多角的に捉え、成人期における健康問題と成人看護の役割を理解する		1.大人の理解 1)大人のイメージ 2)大人の成長・発達 3)大人の家族的・社会的役割 2.大人の健康と生活状況の特徴 1)大人を取り巻く生活状況 2)大人の健康 3)生活習慣病 4)大人の生活と健康をまもりはぐくむシステム 5)健康生活をはぐくむ看護 3.大人の学習の特徴 1)アンドラゴジーモデル 2)行動変容 3)大人と看護師の人間関係 4.大人に生じる危機 1)危機理論 2)危機介入のプロセス 3)自己効力 4)セルフケア理論 5.大人の生活ストレス 1)生活環境に影響を及ぼす因子 2)職場でのストレス 6.健康レベルに対応した看護 1)事例 2)生活習慣病予防指導教育								
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護総論. 医学書院 参考書:国民衛生の動向										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
単元名	危機的状況にある人の看護Ⅰ(呼吸・循環)						
目的	急性期の危機的状況にある成人の特徴を理解し、健康問題を統合的に捉えた危機的状況にある対象への看護の展開を学ぶ						
呼吸(14時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容			講師			
呼吸機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する	1.呼吸器障害症状のアセスメントと看護の視点 呼吸困難、咳嗽・喀痰、吐血・咯血 2.呼吸器検査時の看護 1)気管支鏡検査 2)呼吸機能検査 3)胸腔穿刺 4)肺生検 5)動脈血液ガス分析 3.呼吸器治療における看護 1)肺切除術 2)非侵襲的陽圧換気・侵襲的陽圧換気 3)酸素療法 4)抗アレルギー薬、気管支拡張薬 5)副腎皮質ステロイド 4.呼吸器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)肺癌 2)肺炎 3)慢性閉塞性肺疾患 4)気管支喘息 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器, 医学書院			慢性呼吸器疾患 看護認定看護師 (総合病院で25年の 実務経験有)			
循環(16時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容			講師			
循環機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する	1.循環器障害症状のアセスメントと看護の視点 チアノーゼ、胸痛、不整脈、浮腫、ショック 2.循環器検査時の看護 1)心臓カテーテル検査 2)心電図・心エコー検査 3)心血管造影検査 3.循環器治療における看護 1)経皮的冠動脈形成術 介入換術 2)冠動脈バイパス術 3)大動脈バルーンパンピング 4)ペースメーカー装着 5)植え込み型除細動器 6)血栓溶解療法・血栓除去術 7)強心薬・抗不整脈薬、狭心症治療薬、降圧薬・昇圧薬 4.循環器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)心不全 2)虚血性心疾患 3)不整脈 4)下肢動脈閉塞症 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[3]循環器, 医学書院			集中ケア認定看護師 (総合病院で14年の 実務経験有)			
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器, 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3]循環器, 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術, 南江堂							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		成人看護学		単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅱ		単位	1	時間	30	進度	2年次前期		
単元名	危機的状況にある人の看護Ⅱ(栄養・脳神経)									
目的	手術により健康状態に急激な変化を受ける成人の特徴を理解し、急性期の危機的状況にある人の健康問題を統合的に捉えた対象への看護の展開を学ぶ									
栄養(14時間)										
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験		講師		
学習目標		授業内容								
消化器機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する		1.消化器障害症状のアセスメントと看護の視点 1)腹痛・腹部膨満、嘔気・嘔吐、下痢、便秘、下血 2)黄疸、肝性脳症、食道静脈瘤、腹水 2.消化管検査時の看護 1)上部消化管内視鏡検査 5)直腸診 2)大腸内視鏡検査 6)消化液検査 3)内視鏡的逆行性胆管膵管造影 7)肝生検 4)上部・下部消化管造影 3.消化管治療における看護 1)咽頭・喉頭摘出術 8)胆道・胆のうドレーン挿入 2)食道切除術 9)急性膵炎の治療 3)胃切除術 10)中心静脈栄養法 4)大腸切除術 11)肝底療法 5)腹腔鏡視下手術 12)肝動脈閉塞術 6)人工肛門造設術 13)肝切除術 7)消化管手術後ドレーン挿入 14)インターフェロン療法 4.消化器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)肝炎・肝硬変 2)肝癌 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[5]消化器, 医学書院								
		本校専任教員(21年)看護師 病院(消化器外科、内科、小児科など)9年の実務経験								
脳神経(16時間)										
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験		講師		
学習目標		授業内容								
脳神経機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する		1.脳神経障害症状のアセスメントと看護の視点 1)意識障害、頭痛、高次脳機能障害 2)運動(麻痺・失調)・感覚の異常、失話、けいれん 3)嚥下障害、呼吸障害、排尿障害、バイタルサインの変化 2.脳・神経機能検査時の看護 1)髄液検査 2)脳波検査 3)脳血管造影 3.脳・神経治療における看護 1)開頭術 2)穿頭術 3)血管バイパス術 4)血管内治療 5)脳室ドレナージ術中 6)脳室-腹腔シャント術 4.脳・神経障害をもつ対象のアセスメントと看護 1)脳血管障害 2)脳腫瘍 3)脳梗塞 4)小脳疾患 5)頭部外傷 6)脊髄損傷 7)脳死状態 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経, 医学書院								
		脳卒中リハビリテーション認定看護師 病院(脳神経外科)17年、訪問看護ステーション2年の実務経験								
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[5]消化器, 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経, 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術, 南江堂										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅲ	単位	1	時間	30	進度	2年次前期・後期
単元名	障害受容期にある人の看護(感覚器・性・生殖・運動)						
目的	健康状態に急激な変化を受け回復的な段階にある成人の特徴を理解し、障害受容期にある人の健康問題を統合的に捉え、障害受容と障害の改善と克服への看護の展開を学ぶ						
感覚器(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						看護師 総合病院(皮膚科、耳鼻科、眼科)22年の実務経験
感覚器機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を理解する	1.感覚器障害症状のアセスメントと看護の視点 1)視覚・聴覚・嗅覚・味覚障害の原因と程度、症状 2)皮膚粘膜障害の原因と程度、症状(発疹、びらん、潰瘍) 2.感覚器検査時の看護 1)眼底検査 2)鼻腔内視鏡検査 3.感覚器治療における看護 1)眼底光凝固療法 2)人工眼内レンズ挿入術 3)網膜はく離治療 4.感覚器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)中途視覚障害 2)突発性難聴 3)メニエール病 3)オージオメーター検査 4)スキンテスト 4)鼓室形成術 5)鼻腔内手術 6)内服薬・外用薬 4)副鼻腔炎 5)アトピー性皮膚炎						
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[12]皮膚[13]眼[14]耳鼻咽喉[15]歯・口腔. 医学書院							
参考書:成人看護学 成人看護技術. 南江堂							
性・生殖(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						助産師 病院(産婦人科)38年の実務経験
性・生殖器機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を理解する	1.性・生殖器障害症状のアセスメントと看護の視点 1)性交障害・不妊・性感染症の原因と程度子宮・卵巣腫瘍の程度の把握 2)乳腺の程度の把握 3)ホルモン欠落症状 2.性・生殖器検査時の看護 1)女性生殖器触診、基礎体温測定法、頸管・卵管検査 2)乳房検査 3.性・生殖器治療における看護 1)性交障害治療、不妊治療、性感染症治療 2)乳房切除術、乳癌内分泌療法 4.性・生殖器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)不妊症 2)乳がん 3)更年期障害						
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[9]女性生殖器. 医学書院							
運動(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						看護師 総合病院(整形外科)35年の実務経験
運動機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を理解する	1.運動機能障害症状のアセスメントと看護の視点 1)姿勢・移動・作業機能障害の原因と程度 2)関節可動域障害・筋力低下の原因と程度 3)疼痛(関節痛、筋肉痛、腰痛、坐骨神経痛) 2.運動機能検査時の看護 1)筋生検 2)脊髄造影・椎間板造影 3.運動器治療における看護 1)ギプス固定 2)人工関節置換術 4.運動器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)関節リウマチ 2)椎間板ヘルニア 3)重症筋無力症 3)膝関節鏡検査・膝関節液検査 4)牽引法 4)ギラン・バレー症候群 5)筋萎縮性側索硬化症 6)四肢切断後						
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[10]運動器. 医学書院							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅳ	単位	1	時間	30	進度	2年次後期
単元名	セルフケア期にある人の看護(内部環境・代謝・生体防御機能障害)						
目的	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ成人の特徴を理解し、健康問題を統合的に捉え、セルフコントロールを促す看護の方法を学ぶ						
内部環境(内分泌・腎)(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
内部環境調節機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する	1.内分泌機能障害症状のアセスメントと看護の視点 2.内分泌機能検査時の看護 ホルモン負荷試験、ホルモン血中・尿中濃度測定検査 3.内分泌疾患の治療における看護 ホルモン・手術療法 4.内分泌機能障害をもつ対象のアセスメントと看護(バセドウ病) 5.腎機能障害症状のアセスメントと看護の視点 体液量・電解質・調節機能障害の原因と程度、症状 6.腎機能検査時の看護 静脈性尿路造影、腎機能検査(PSP、フィッシュバーグ、濃縮、GFR)腎生検 7.腎機能治療における看護 食事・運動療法、透析各種、腎移植 8.慢性腎不全・ネフローゼ症候群をもつ対象のアセスメントと看護						看護師 総合病院等9年、訪問看護ステーション1年の実務経験
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝 [8]腎・泌尿器. 医学書院							
代謝(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
代謝機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する	1.代謝機能障害症状のアセスメントと看護の視点 1)代謝機能障害(エネルギー、脂質、尿酸)の原因と程度と生命・生活への影響 2)血糖調節機能障害の原因と程度と生命・生活への影響 2.代謝機能検査時の看護 1)中間代謝産物の検査 2)糖負荷試験、血糖自己測定 3.代謝機能障害時の治療における看護 1)インスリン補充療法、インクレチン関連薬による治療、糖尿病治療内服薬 2)食事・運動療法 4.代謝機能障害をもつ対象のアセスメントと看護 1)高尿酸血症、高脂血症、肥満 2)糖尿病						皮膚排泄ケア認定看護師 総合病院(循環器科、脳神経外科など)18年の実務経験
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝. 医学書院							
生体防御機能障害(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
生体防御機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する	1.生体防御機能障害症状のアセスメントと看護の視点 1)アレルギー反応 2)免疫機能障害の原因と程度 3)貧血、発熱、易感染、出血傾向 2.生体機能検査時の看護 1)スキンテスト 2)骨髄穿刺 3.生体防御機能障害時の治療における看護 1)減感作療法、免疫抑制薬、ステロイド療法 2)抗HIV療法 3)化学療法、放射線療法、輸血療法 4.生体防御機能障害をもつ対象のアセスメントと看護 1)HIV感染症 2)自己免疫疾患(膠原病)						本校専任教員(9年)看護師 総合病院(内科など)9年、保健指導相談員8年の実務経験
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血器 [11]アレルギー 膠原病 感染症. 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術. 南江堂							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅴ	単位	1	時間	30	進度	2年次後期
単元名	終末期にある人の看護						
目的	健康障害において死を迎える成人及びその家族の特徴を理解し、対象が人生最期の時を少しでも安楽に過ごすことができるための看護師の役割を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標	授業内容						本校専任教員(5年)看護師 総合病院(ICU、外科、消化器科・循環器科など)22年の実務経験
死を迎える対象の特徴を理解する	1.終末期にある状態 1)終末期における健康危機的状況の特徴 2)終末期にある対象と家族の特徴 3)悲嘆のプロセス 2.倫理的課題 1)がん患者の包括的QOL 2)最大の益をめざすこと 3)自己決定の自由の実現(アドバンス・ケアプランニング) (1)アドバンス・ディレクティブ (2)リビング・ウィル						
死を迎える対象と家族に対する看護師の役割を理解する	1.身体的援助 1)健康危機状態にある成人の苦痛と緩和ケアの必要性 2)苦痛の理解 3)苦痛のアセスメント 4)苦痛緩和への援助 5)化学療法時の援助 2.精神的援助 1)心理過程に応じたコミュニケーション 2)悲嘆への援助 3)精神症状のある患者への援助 3.社会的援助 1)社会的苦痛に対する援助 2)社会資源の活用 4.家族への援助 1)グリーフケア 2)遺族への援助 5.看取りの援助 死後の処置						
テキスト:系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院 参考書:系統看護学講座 基礎看護学[4]臨床看護総論, 医学書院							

専門分野Ⅱ

【 成人看護学実習Ⅰ 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

成人期の特性を踏まえ、回復期～慢性期にある対象を理解し、対象に応じた看護の実際を学ぶ
機能障害を持った対象への社会資源の活用と継続看護の必要性を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成人期の発達段階や回復期～慢性期の特性をふまえ、健康障害が及ぼす生活環境の変化とその影響を考え、対象の健康問題を総合的に捉える
- 2) 対象の生活環境と健康問題の関連性を考え、健康の回復と疾病の再燃予防に及ぼす影響をアセスメントする
- 3) 対象の健康問題を抽出し、問題解決に必要な援助を計画し、対象の安全・安楽・セルフケア能力を考慮しながら実施する
- 4) 継続看護の重要性をふまえ、保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解し、社会復帰へ向けた看護行為を実施する

3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1週間の計画案記入	事前学習・No1・2提出(学内)
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始	共通記録用紙
2日目以降	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する	データベース・情報収集 アセスメント・関連図に記入
	・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する	共通記録用紙に看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入
	・対象に指導・教育的な関わりを行なう場合は、対象の同意を得て事前に指導・教育計画を立案し実施する (実施は指導者に確認し実施する)	指導時は指導書計画書作成
	・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する *援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する 1週間に1回1事例のケースカンファレンス 以後、行程を繰り返しながら援助を行なう *受け持ち変更時は新たに行程を踏む	記録は日々追加していく
		ケースカンファレンス用紙
6日目	中間評価	評価表提出
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評価	評価表提出

共通記録用紙No1～No9使用(必要時プロセスレコード記載)

最終提出はNo1～No9をそろえて最後に評価表を添付する

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

【 成人看護学実習Ⅱ 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

成人期の特性を踏まえ、急性期～回復期にある対象を理解し、対象に応じた看護の実践を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成人期の発達段階や急性期～回復期の特性をふまえ、健康障害が及ぼす生活環境の変化とその影響を考え、対象の健康問題を総合的に捉える
- 2) 対象の生活環境と健康問題の関連性を考え、健康の回復と疾病の予防に及ぼす影響をアセスメントする
- 3) 急性期～回復期の特徴を把握し、手術や急性期における危機的状態での苦痛や生命危機、精神・社会的側面への影響を考え、対象に応じた健康行動を促進する援助を実施する
- 4) 危機的状態にある対象の家族・医療スタッフの位置づけや役割を理解する

3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1 週間の計画案記入	事前学習・No1・2 提出 (学内)
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始	共通記録用紙のデータベース・情報収集・アセスメント・関連図に記入
4 日目	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・対象に指導・教育的な関わりを行なう場合は、対象の同意を得て事前に指導・教育計画を立案し実施する（実施は指導者に確認し実施する） ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する *援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する 1 週間に 1 回 1 事例のケースカンファレンス以後、行程を繰り返しながら援助を行なう *受け持ち変更時は新たに行程を踏む	共通記録用紙に看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入
		指導時は指導書計画書作成
		記録は日々追加していく
		ケースカンファレンス用紙
6 日目	中間評価	評価表提出
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評	評価表提出

共通記録用紙No1～No9 使用（必要時プロセスレコード記載）

最終提出はNo1～No9 をそろえて最後に評価表を添付する

☆受け持ちの手術場面見学

- ・手術に伴う検査の目的・方法を理解し適切に検査が行なわれるように援助する
- ・術後に起こりやすい合併症の予測
- ・手術を受ける対象（家族も含む）の心理的状況の理解し（どのように説明されているか）、対象が手術を受容できるように援助する
- ・術前処置の必要性
- ・手術室内での対象の状況を理解する
- ・手術見学を通し、対象に必要な術後の看護を理解する

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

【 成人看護学実習Ⅲ 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的
成人期の特性を踏まえ、慢性期・終末期にある対象を理解し、対象に応じた看護の実践を学ぶ。
2. 実習目標
 - 1) 成人期の発達段階や慢性期・終末期の特性をふまえ、健康障害が及ぼす生活環境の変化とその影響を考え、対象の健康問題を総合的に捉える
 - 2) 対象の生活環境と健康問題の関連性を考え、健康の維持と症状の再燃に及ぼす影響をアセスメントする
 - 3) 慢性期・終末期の特徴を把握し、慢性的な健康状態により自己管理が必要な対象へのセルフケアを促す指導方法及び終末期にある対象とその家族がよりよい生活を送るための援助を実施する
 - 4) 終末期にある対象の個性性を尊重し、全人的な関わりを学び、家族への援助ができる

3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1週間の計画案記入	事前学習・No1・2 提出(学内)
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始	共通記録用紙
2日目以降	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・対象に指導・教育的な関わりを行なう場合は、対象の同意を得て事前に指導・教育計画を立案し実施する (実施は指導者に確認し実施する) ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する ＊援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する 1週間に1回1事例のケースカンファレンス 以後、行程を繰り返しながら援助を行なう ＊受け持ち変更時は新たに行程を踏む	データベース・情報収集 アセスメント・関連図に記入
		共通記録用紙に看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入
		指導時は指導書計画書作成
		記録は日々追加していく
6日目	中間評価	評価表提出
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評価	評価表提出

共通記録用紙No.1～No.9 使用 (必要時プロセスレコード記載)

最終提出はNo.1～No.9 をそろえて最後に評価表を添付する

4. 実習中の注意事項
 - 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
 - 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
 - 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
 - 4) 決められた服装で実習に臨む
 - 5) 時間厳守
 - 6) グループでの行動を意識して協力する
5. 提出について
 - 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
 - 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する
6. 単位修得の認定
 - 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
 - 2) 成績評価の基準
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学	単位	4	時間	105
科目	老年看護学概論(対象の理解)	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
目的	高齢社会における老年看護の概念と意義を理解し、ライフサイクルの中での老年期にある対象の身体的・精神的・社会的機能の特徴およびその生活を理解する						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					本校専任教員(9年) 看護師(総合病院で9年の実務経験有)
老年期を理解し、 老年看護の意義を 理解する		1. ライフサイクルにおける老年期の理解 1)「若い」とは 2)ライフステージとしての老年期 3)加齢と老化 2. 老年看護の概念・役割・機能 1)高齢社会の中での看護の役割 2)老年看護の成立過程 3)老年看護の目的・原則・倫理課題 3. 人口学的指標、健康指標からの老年期の理解 1)高齢者人口の推移 2)疾病構造、有病率、有訴率、受療行動など 4. 生活の視点からの老年期の理解 1)生活の構造・リズム・習慣 2)役割・社会活動 3)家族・世帯構成 4)就労・経済状態					
老年期にある対象 の身体的・精神的・ 社会的機能の特徴 と生活者としての高 齢者を理解する		5. 高齢者の身体的・精神的・社会的機能の特徴 1)高齢者の個体差と多様性 2)老年期の発達と成熟 3)老年期の発達課題 6. 高齢者の生活と環境 1)加齢に伴う生活の変化 2)経済的・社会的な生活 3)高齢者と家族の関係 4)楽しみ・生きがい 5)高齢者の自立とセルフケア 6)高齢者を支える人々 7)看護・介護					
老年期を生きる 人々の健康と高齢 社会における保健・ 医療・福祉制度に ついて理解する		7. 高齢者にとっての健康 老年期の健康のとらえ方 8. 高齢者と社会制度 1)高齢者ケアに関わる多職種の看護の役割 2)高齢者と家族					
老年看護の基本的 な考え方を理解す る		9. 高齢者のQOL 1)高齢者の人権・権利擁護 2)自立支援とエンパワメント 10. 老年看護の原理・特性 1)安全な生活への看護 2)健康の保持増進と予防活動 3)疾病の回復への看護 4)日常生活能力の維持・改善 5)終末期の看護 6)継続看護・在宅生活への看護 7)家族との協働・家族看護 11. 倫理課題 1)自己決定 2) 高齢者差別 3)身体拘束・虐待					
テキスト: 系統看護学講座 老年看護学, 医学書院 参考書: 国民衛生の動向							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学		単位	4	時間	105
科目	老年看護学方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	進度	2年次前期	
単元名	健康障害・疾病をもつ高齢者の看護							
目的	健康障害をもつ高齢者を身体・精神・社会的特徴をふまえて捉え、対象にとっての健康生活を支える看護を理解し、その方法を学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				講師	
学習目標		授業内容						大学准教授 看護師 総合病院等9年、訪問看護ステーション1年の実務経験
老年看護の原理・原則及び老年看護の基本的技術を理解する		1. 高齢者におきやすい症候と看護 2. 高齢者とのコミュニケーションの方法 3. 高齢者の障害受容への看護 4. 老年者のフィジカルアセスメント						
高齢者に特徴的な症候、疾患を理解し、健康障害をもつ老年者の看護を理解する		5. 高齢者におきやすい症候とその看護 1) 発熱 2) 疼痛 3) ショック 4) 意識障害 5) 睡眠障害 6) 呼吸困難 7) 摂食・嚥下障害 8) 排泄障害・失禁 9) 転倒・骨折 10) 寝たきり 11) 心理の理解						
		6. 老年期に特徴的な疾患と看護 1) 認知症 2) 脳梗塞・パーキンソン病 3) うつ病 4) 心不全 5) 誤嚥性肺炎 6) 大腿頸部骨折、骨粗しょう症 7) 視覚・聴覚の障害 8) MRSA						
健康障害を高齢者の生活機能の視点から捉え、生活を支える看護を理解する		7. 視覚・聴覚の障害 1) 視覚・聴覚障害が生活に及ぼす影響と評価 2) 住環境や生活環境の整備 8. コミュニケーションの障害 コミュニケーション障害の原因の把握・評価 9. 嚥下機能の低下、摂食障害 1) 嚥下障害の原因・観察・評価 2) 誤嚥の予防、嚥下機能を高める看護 10. 排泄コントロールの障害 1) 排泄コントロール障害の原因の把握、生活への影響 2) 排泄コントロール障害への看護 11. 日常生活動作(ADL)の障害 1) 日常生活動作(ADL)の評価と看護 2) 残存機能を引き出す援助技術 12. 長期臥床・廃用症候群 1) 長期臥床状態の原因の把握、残存機能の評価 2) 合併症の予防 3) 褥創予防と褥創ケア 13. 認知症・精神障害 1) 認知症の種類と評価の方法 2) 認知症による日常生活機能の障害と看護 14. 骨粗鬆症 1) 骨粗鬆症の程度と生活へ及ぼす影響の評価 2) 転倒・骨折の予防						
治療を受ける高齢者の看護を理解する		15. 薬物療法 16. 検査・手術 17. 受療形態に応じた看護						
高齢者の終末期の看護について理解する		18. 終末期にある高齢者の看護 1) 高齢者の死についてのとらえ方 2) 死の準備教育 3) 臨死期の看護・死の徴候について 4) 家族への看護・グリーフケア						
テキスト: 系統看護学講座 老年看護学、医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾病論、医学書院 参考書: 適宜関係図書紹介 資料配布								

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学	単位	4	時間	105
科目	老年看護学方法論Ⅱ	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
単元名	保健・医療・福祉制度活用理解						
目的	高齢者の生活において保健・医療・福祉制度が重要な意味をもつことを理解し、制度の内容や変化が高齢者や老年看護に与える影響及び看護師の役割について理解する						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標	授業内容						
高齢社会を支える制度やソーシャルサポートシステムについて理解する	1.介護保険制度の理解 1)創設・改正の経緯 2)介護保険制度の理念・特徴 3)介護保険制度のしくみ 4)ケアマネジメント 5)施設サービス 6)居宅サービス 7)チームケア・チーム連携 2.ソーシャルサポートシステムの理解 3.成年後見制度の理解 1)基本理念 2)種類 3)適応 4)利用方法						【8/30時間】 社会福祉士 地域包括支援センター等26年の実務経験 【12/30時間】 看護師 総合病院(呼吸器科内科、感染症病棟)24年の実務経験 【10/30時間】 看護師 総合病院(呼吸器内科、消化器外科など)16年の実務経験
高齢者の保健・医療・福祉施設における看護について理解する	1.各施設の特徴と看護 1)療養型病床 2)老人保健施設 3)特別養護老人ホーム 4)グループホーム						
在宅高齢者の看護について理解する	2.高齢者の在宅生活を支える看護サービス 1)訪問看護の目的・役割と機能 2)訪問看護援助 3)対象の生活環境のアセスメント調整 4)多職種連携とチームアプローチ 5)健康増進、保健予防活動						
高齢者を介護する家族への看護について理解する	3.介護をする家族への理解と看護者としての援助 1)介護者の健康・介護力の評価 2)家族の生活の理解と家族への援助の視点 3)家族介護の課題・介護問題の社会的側面						
テキスト:系統看護学講座 老年看護学、医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学			単位	4	時間	105
科目	老年看護学方法論Ⅲ	単位	1	時間	15	進度	2年次前期		
単元名	看護展開								
目的	老年期に発症頻度の高い事例を用い、高齢者を身体的・精神的・社会的側面から捉え、対象の健康レベルに応じた看護を多様な生活・療養場面で展開する方法を学ぶ								
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容							本校専任教員(9年) 看護師 総合病院(内科など)9 年、保健指導相談員8 年の実務経験
老年期の特徴をふま え、健康障害が 対象の生活に及ぼ す影響を理解する		1.対象の特徴を捉えるアセスメントの視点 1)健康障害のアセスメント 2)健康問題を抱える対象のアセスメント (1)身体的側面 (2)精神的側面 (3)社会的側面 3)対象の生活環境のアセスメント							
対象の健康レベル に応じた看護の展 開を理解する		2.事例の展開 老年期の特性、発達段階の理解と看護							
テキスト:系統看護学講座 老年看護学. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布									

【 老年看護学実習Ⅰ 】 2単位 45時間 2年次

1. 実習目的

高齢者の生活史を踏まえ、コミュニケーションを通して、健康問題や障害を抱えながらも地域で生活している対象を理解する

2. 実習目標

- 1) 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を把握し、対象にあったコミュニケーションをとる
- 2) 高齢者の発達段階を理解し、加齢による機能低下や障害を持ちつつ自立を目指す対象の理解を深める
- 3) 施設における高齢者の安全に配慮された生活環境を理解する
- 4) 高齢者と家族をとりまく保健・福祉・医療機関を知り、施設における多職種間の連携の重要性を理解する
- 5) 高齢者の尊厳及び権利を尊重した態度を身につける

3. 実習場所

介護老人保健施設・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

4. 実習方法

	内 容		記録用紙
高齢者スポーツ大会	補助員として大会に参加し、尊敬の気持ちを忘れないで高齢者とコミュニケーションをとる		No.4
施設実習	1日目	オリエンテーション（施設の概要）、施設見学 受け持ち対象となる利用者の情報収集 職員とともに日常生活援助見学・実施	No.1・No.2・No.3
	2日目	行動目標を明確にして、実習に臨む 職員とともに日常生活援助見学・実施	No.2・No.3
	3日目	行動目標を明確にして、実習に臨む 職員とともに日常生活援助見学・実施	No.2・No.3
	4日目	行動計画を明確にして、実習に臨む カンファレンス・反省会	No.2・No.3
記録用紙	No.1 老年看護学実習Ⅰ 実習課題用紙 No.2 行動計画書（共通記録用紙） No.3-① No.3-② 老年看護学実習Ⅰ 記録用紙 No.4 高齢者スポーツ大会レポート（高齢者スポーツ大会終了後） No.5 老年看護学実習Ⅰ 実習振り返り用紙（施設実習終了後） ※評価表		

5. 実習中の注意事項

- 1) 実習中知り得たすべての情報について口外しない（守秘義務）
- 2) 生活援助は、必ず職員とともに見学・実施する
- 3) 自己判断で行動することなく、指導者・教員への報告・連絡・相談を怠らない
- 4) 自身の心身の健康管理に十分配慮する

6. 記録物について

- 1) 事前学習は指定期日までに提出する
- 2) 終了後、実習記録一式をファイルに入れ、指定期日まで担当教員に提出する

7. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

【 老年看護学実習Ⅱ 】 3単位 135時間 3年次

1. 実習目的

健康障害をもつ老年期の対象を多面的に捉え、疾患や障害をもちながらもその人らしい生活を営むために必要な援助ができる。そのうえで、対象を生活機能の観点から捉えた看護展開の方法を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 老年期の発達段階をふまえ、健康障害をもつ対象の健康問題を身体的・精神的・社会的側面から捉える
- 2) 健康障害と生活背景の関連性を考え、健康障害が対象及び家族の生活に及ぼす影響と発達段階をふまえた健康の回復について理解する
- 3) 対象の健康問題から看護計画を立案し、セルフケア能力を生かした看護援助の方法を理解する
- 4) 継続看護の視点を持ち、対象の生活を支える多職種連携と看護師の役割を理解する
- 5) 高齢者の人権を尊重した看護者の態度を学ぶ

3. 実習方法

週／曜日	内 容	記録用紙
事前学習	実習の課題を明確にする 事前学習	No.1 事前学習No.10
1 週目	1 実習目的・目標にあわせた自己の計画を立てる 2 オリエンテーション、受け持ち対象紹介、情報収集 3 受け持ち対象及び家族、同室者とのコミュニケーションを図る 4 得られた情報をアセスメントする 5 関連図を書き、対象の全体像を捉える ＊情報の変化に応じてアセスメントをし、追加・修正をする 6 初期の看護問題を挙げる	No.2・No.3・No.4・No.5
2 週目	1 看護計画の立案 ＊対象の全体像を捉え、看護過程にそって看護計画を立案する ＊情報の変化に応じてアセスメントをし、追加・修正をする 2 看護師と共に計画の実践 ⇔ 評価・修正を繰り返す 3 ケースカンファレンス ＊中間評価	No.2・No.3・No.4・No.5・No.6 ケースカンファレンス用紙 評価表
3・4 週目	1 実践 ⇔ 評価 ⇔ 修正 を繰り返す。 2 ケースカンファレンス 自己の看護計画、実践、評価の過程をふりかえり、指導者や他の学生の助言を受けて、修正した計画を実践する ＊最終評価	No.2・No.3・No.4・No.5・No.6 カンファレンス用紙 評価表
記録用紙	No.1 実習課題用紙 No.2 行動計画書 No.3 情報の分類・整理と分析・解釈 データベース	No.4 関連図 No.5 看護上の問題No. No.6 受け持ち患者看護計画 No.9 実習振り返り用紙

4. 実習中の注意事項

- 1) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、守秘義務を厳守する
- 2) 服装、時間など規則を守る
- 3) 自己の体調管理に留意する
- 4) 各自が自己の責任を果たし、グループ間で協力しあうこと

5. 提出物について

- 1) 登校日に、実習担当教員へ提出し、指導を受ける
- 2) 指定された実習記録一式をファイルに入れ、指定期日までに担当教員まで提出すること

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	小児看護学	単位	4	時間	105
科目	小児看護学概論(子どもの理解)	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
目的	小児看護の対象である子どもの特徴について理解し、看護の役割について学ぶ。また、子どもの健康の保持・増進、健康の回復を促すためには、子どもと家族がおかれている社会環境を様々な側面から学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート			講師	
学習目標	授業内容						
小児看護の変遷を学び小児看護の現状と今後の課題を理解する	1.小児看護の特徴と理念 1)小児看護の日々すところ (1)小児看護の対象 (2)小児看護の目標と役割 2)小児と家族の諸統計 (1)わが国の人口構造 (2)出生と家族 (3)小児の死亡 3)小児看護の変遷 4)小児看護における倫理 5)小児看護の課題 (1)疾病構造の変化と小児看護 (2)社会の変化と小児看護 (3)小児看護の専門分化						【10/30時間】 大学准教授 看護師 (総合病院で9年、訪問看護ステーションで1年の実務経験有)
小児看護の機能と役割を理解する	2.小児と家族を取り巻く社会 1)子どもにとっての家族とは 2)現代家族の特徴 3)児童福祉 4)母子保健 5)医療費の支援 6)予防接種 7)学校保健安全 8)特別支援教育 9)臓器移植法						【20/30時間】 保健師 短期大学講師 (市町村、地域包括支援センターで17年の実務経験有)
子どもの成長発達を知り、成長発達段階に必要な健康増進を促す看護を理解する	3.小児の成長・発達 1)成長・発達とは 2)成長・発達の進み方 3)成長・発達に影響する因子 4)成長の評価 5)発達の評価 4.小児の栄養 1)小児にとっての栄養の意義 2)食事摂取基準 3)発達段階別の小児の栄養の特徴 5.新生児・乳児 1)新生児(メインは母性で行う) 2)乳児 6.幼児・学童 1)幼児 2)学童 7.思春期・青年期の小児 思春期・青年期 8.家族の特徴とアセスメント 1)子どもにとっての家族とは 2)家族アセスメント						
テキスト:系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論. 医学書院 参考書:国民衛生の動向							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	小児看護学	単位	4	時間	105
科目	小児看護学方法論Ⅰ(健康障害)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的 健康障害のある子どもを理解し、子どもと家族に必要な看護を実践するための基礎的知識を学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート			講師	
学習目標	授業内容						
小児特有の疾患について知り、看護の基礎的知識を理解する	1.染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 1)出生前・後 成長発達過程 2)染色体異常 2.新生児 新生児の疾患・低出生体重児 3.代謝性疾患 1)先天代謝異常症 2)1型2型糖尿病 4.内分泌疾患 下垂体・甲状腺・副腎・性腺異常 5.免疫・アレルギー性疾患、膠原病 1)アレルギーの分類と発生機序 2)食物アレルギー・気管支喘息 3)免疫不全症・リウマチ性疾患 6.感染症 1)微生物総論 2)ウイルス・細菌・真菌・その他の感染症 7.呼吸器疾患 1)上気道の疾患 2)気管支・肺・胸膜疾患 8.循環器疾患 1)先天性心疾患 2)川崎病 突然死 9.消化器疾患 形態異常・その他の消化器疾患 10.血液・造血器疾患 11.悪性新生物 造血器腫瘍・脳腫瘍・その他の固形腫瘍 12.腎・泌尿器および生殖器疾患 1)泌尿・生殖器の奇形 2)腎糸球体疾患 13.神経疾患 1)神経系の奇形 2)脳性麻痺・水頭症その他の疾患 14.運動器疾患 先天性股関節脱臼・内反足・斜頸・骨折 15.感覚器疾患 1)皮膚疾患 2)眼疾患 3)耳鼻咽喉疾患 16.精神疾患 1)神経症性障害と発達障害 2)注意欠陥／多動性障害の子ども						【2/30時間】 医師 総合病院(小児科)等 16年、診療所(小児科)25年の実務経験 【14/30時間】 医師 総合病院(小児科)48 年の実務経験 【8/30時間】 医師 総合病院(小児科)40 年の実務経験 【6/30時間】 医師 総合病院(小児科)13 年、診療所(小児科) 28年の実務経験
テキスト:系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	小児看護学	単位	4	時間	105
科目	小児看護学方法論Ⅱ(小児看護)	単位	1	時間	30	進度	2年次後期
目的 健康問題のある子どもと家族への看護について学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						
健康問題をもつ子どもと家族の特徴や、疾病の経過時の看護について理解する	1.病気・障がいをもつ小児と家族の看護 1)病気・障がい小児と家族に与える影響 2)小児の健康問題と看護 2.小児における疾病の経過と看護 1)慢性期にある子どもと家族の看護 2)急性期にある子どもと家族の看護 3)周手術期の子どもの家族の看護 4)終末期の子どもと家族の看護						【16/30時間】 看護師 総合病院(小児科)6年、病院3年の実務経験
小児看護における外来・入院・在宅の特徴を知り、子どもと家族の看護について理解する	3.小児の状況(環境)に特徴づけられる看護 1)入院中の小児と家族の看護 2)外来における小児と家族の看護 3)在宅療養中の小児と家族の看護 4)災害時の小児と家族の看護						
さまざまな症状を示す子どもと家族の看護について理解する	4.症状を示す小児の看護 1)不きげん 2)啼泣 3)痛み 4)呼吸困難・鼻閉 5)チアノーゼ 6)ショック 7)発熱 8)嘔吐 9)下痢 10)便秘 11)脱水 12)浮腫 13)出血 14)貧血 15)けいれん 16)意識障害 17)発疹 18)黄疸						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						
障がいのある子どもと家族の特徴や、看護について理解する	5.障がいのある子どもと家族の看護 1)障がいのとらえ方 2)障がいのある小児と家族の特徴 3)障がいのある子どもと家族の社会的支援						【14/30時間】 保健師 総合病院(小児科)12年、大学助教2年の実務経験
現代の子どもと家族の抱えている問題について理解する	6.子どもの虐待と看護 1)子どもの虐待の現状と対策の経緯 2)子ども虐待とは 3)リスク要因と発生予防・早期発見 4)子どもの虐待に特徴的に見られる状況 5)求められるケア						
子どもの健康上の問題を解決するため看護過程を理解する	7.事例による看護過程の展開 1)気管支喘息の小児の看護 2)肺炎の小児の看護 3)ネフローゼ症候群の小児の看護 4)白血病の小児の看護						
テキスト:系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	小児看護学		単位	4	時間	105
科目	小児看護学方法論Ⅲ (小児看護技術)	単位	1	時間	15	進度	2年次後期	
目的	小児看護に必要な看護技術を学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				講師	
学習目標	授業内容							保健師 総合病院(小児科)12年、大学助教2年の実務経験
小児看護特有の基本技術を身につけ、子どもと家族への看護を理解する	1. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン (3) 身体測定 2) 身体的アセスメント (1) 一般状態 (2) 眼 (3) 耳 (4) 顔面・鼻・口腔 (5) 呼吸 (6) 心臓・血管系 (7) 腹部 (8) 筋・骨格系 (9) 神経系 (10) 生殖器 (11) リンパ系 (12) 皮膚・爪・体毛 2. 事故・外傷 1) おもな事故・外傷と子ども (1) 不慮の事故総論 (2) 頭部外傷 (3) 誤飲・誤嚥 (4) 溺水 (5) 熱傷 (6) 熱中症 3. 検査・処置を受ける小児の看護 1) 検査・処置総論 プレバレーションの実際 2) 薬物動態と薬用量の決定 3) 治療・処置各論 (1) 与薬 (2) 輸液管理 (3) 抑制 (4) 検体採取 (5) 電法 (6) 清潔 (7) 経管栄養 (8) 排泄 (9) 呼吸症状の緩和							
テキスト: 系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論, 医学書院 参考書: 適宜関係図書紹介 資料配布								

専門分野Ⅱ

【 小児看護学実習Ⅰ 】 1単位 45時間 2年次後期

1. 実習の目的
健康な子ども及び障がい児の成長発達段階を理解し、成長発達を促すための関わり方について学ぶ
2. 実習目標
 - 1) 健康な子どもの成長・発達の特徴を理解する
 - 2) 成長発達段階における個別性を把握し、個々に応じた日常生活行動を理解する
 - 3) 健康維持、増進、予防対策、安全対策について理解する
 - 4) 障がい児を取り巻く環境について理解することができる
 - 5) 障がい児の個々の違いを把握し、関わり方を学ぶ
 - 6) 子どもの権利を意識し、子どもの人権を尊重した態度を養う
3. 実習方法

実習場所	日	内 容	記録用紙
校 内		学内オリエンテーション 事前学習	共通記録用紙No.1 提出
保育園（所）	1	オリエンテーション 各教室実習	共通記録用紙No.1 保育所実習記録No.1・No.2
	2	各教室実習	保育所実習記録No.1・No.2
	3	各教室実習	保育所実習記録No.1・No.2
	4	各教室実習 カンファレンス	保育所実習記録No.1・No.2 共通記録用紙No.9
小学校	1	オリエンテーション 各教室実習	共通記録用紙No.1・No.9 小学校実習記録No.1・No.2
支援学校	1	オリエンテーション 各教室実習	共通記録用紙No.1・No.9 支援学校記録No.1
校 内		実習まとめ・反省会	発表会後反省会記録提出

4. 用紙の説明
 - 1) 共通記録用紙No.1 実習課題用紙：実習初日に各施設長に提出する
 - 2) 保育所記録No.1：実習中に記入
No.2：毎日1枚記入し、担当保育士にコメントをいただく
 - 3) 小学校記録No.1・No.2：ともに実習中に記入し、クラス担当教諭からコメントをいただく
 - 4) 支援学校記録No.1：実習中または実習終了後記入する
 - 5) 共通記録用紙No.9 振り返り用紙：後日記録物を振り返り記入する
 - 6) 評価表（学生用）：記録と共に提出
 - 7) カンファレンス用紙：実習終了後担当教員に提出
5. 実習中の注意事項
 - 1) 子どもと家族のプライバシーを保持すること
個人情報保護に対しての個人の誓約書を記入する
 - 2) 自己の感染症対策を万全にすること
 - 3) 事故防止に心がけること
 - 4) 実習にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いに気をつけること
 - 5) 実習グループとして協力すること
6. 提出について
 - 1) 事前学習および実習課題は、実習2週間前までに担当教員へ提出
 - 2) カンファレンス記録・実習記録は、次週の登校日に担当教員へ提出
 - 3) 校内実習反省会はグループごとに所定用紙の項目ごとにまとめ、発表し担当教員へ提出
7. 単位修得の認定
 - 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
 - 2) 成績評価の基準
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

【 小児看護学実習Ⅱ 】 1単位 45時間 3年次

1. 実習の目的

子どもとその家族を理解し、成長・発達段階及び健康問題に応じた看護の方法について学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成長発達段階及び健康問題に応じた看護の必要性を理解する
- 2) 健康問題が対象とその家族に及ぼす影響を理解する
- 3) 小児看護に必要な基本的技術の方法を理解する
- 4) 継続看護の必要性を認識し、看護者の役割を理解する
- 5) 看護専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

週	日	内 容	記録用紙
		学内オリエンテーション 事前学習	事前学習
1週目	1	オリエンテーション 患者紹介 病棟実習 カンファレンス	事前学習 共通用紙No.1・No.2 提出 (指導者へ)
	2	病棟実習 カンファレンス	共通用紙No.2 小児記録No.3・No.4
	3	病棟実習 カンファレンス 外来実習	共通用紙No.2・No.7・No.8 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6
2週目	4	病棟実習 中間評価 (全員でカンファレンス)	共通用紙No.2・No.7・No.8 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6
	5	病棟実習 カンファレンス	共通用紙No.1・No.2・No.7・No.8 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6
	6	病棟実習 最終評価 (個別)・カンファレンス	共通用紙No.1・No.2・No.7・No.8・No.9 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6

病棟実習は受け持ちを決めて看護展開をする

※外来実習は病棟実習中、半日以上実施 (実習初日に外来に挨拶をし、実習日の確認をする)

4. 用紙の説明

- No.1 共通実習課題用紙 (病棟・外来で1枚)
- No.2 共通実習計画用紙 (毎日書き提出)
- No.3 小児の情報収集・アセスメント用紙
- No.4 小児の経過表・看護記録用紙
- No.5 小児用プレパレーション計画実施用紙

5. 実習中の注意事項

- 1) 小児と家族のプライバシーを保持すること
個人情報保護に対しての個人の誓約書を記入する
- 2) 自己の感染症対策、健康管理を万全にすること
- 3) 事故防止に心がけること
所在を明らかにして行動する
報告・連絡・相談をすること
- 4) 実習にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いをする
胸のポケットにはネームのみ
アプリケは腰のポケットに付ける
外来実習では小児用エプロンをつける (学校から借りる)
- 5) 実習グループとして協力すること

6. 提出について

- 1) 事前学習記録は2週間前までに担当教員に提出
共通記録用紙No.1、No.2 (初日のみの計画) は1週間前までに担当教員に提出
- 2) 指定された実習記録一式は、実習終了後1週間以内に担当教員へ提出

7. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習日標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	単位	4	時間	105
科目	母性看護学概論(対象の理解)	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
目的 母性看護の対象の特徴を理解し看護の役割について学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						本校専任教員(3年)助産師(病院で5年、診療所で1年の実務経験有)
母性の概念と母性看護の意義および特性を学び、母性看護の目的を理解する	1.母性看護の基盤となる概念 1)母性とは 母性の身体的、心理的、社会的特性 2)母子関係と家族発達 (1)愛着・母子相互作用と母子関係形成 (2)家族機能とその発達課題 3)セクシャリティー 4)リプロダクティブヘルス/ライツ 5)ヘルスプロモーション 6)母性看護のあり方 母性看護の理念／課題と展望 7)母性看護における倫理 (1)生命倫理と看護倫理 (2)看護における倫理的意思決定 8)母性看護における安全・事故予防						
母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する	2.母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1)母性看護の歴史的変遷と現状 2)母性看護の対象を取り巻く環境 家族・地域社会						
母性看護の対象の特性を理解する	3.母性看護の対象理解 1)女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 (1)性の分化と胎児期における生殖器の発育 (2)生殖器の形態・機能 2)女性・家族のライフサイクル 3)母性の発達・成熟 (1)女性性・母性性の発達 (2)母子関係と愛着						
看護実践に必要な対象者のアセスメントと看護実践の基礎を理解する	4.母性看護に必要な看護技術 1)母性看護における看護過程 2)情報収集・アセスメント技術 3)母性看護に使われる看護技術 ライフサイクル各期の事例						
ライフサイクル各期の健康と看護の必要性を理解する	5.女性のライフサイクル各期における看護 1)ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2)思春期の健康と看護 3)成熟期の健康と看護 4)更年期の健康と看護 5)老年期の健康と看護 6)ライフサイクル各期にまたがる健康問題と看護						
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論. 医学書院 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディカ 参考書:国民衛生の動向							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		母性看護学		単位	4	時間	105	
科目	母性看護学方法論Ⅰ(妊娠期)		単位	1	時間	30	進度	2年次前期			
目的	生殖に関わる健康問題を知り、妊娠期にある人々とその家族への看護について基礎的知識と技術を学ぶ										
方法	講義		評価方法		筆記試験			講師			
学習目標		授業内容									
生殖に関わる健康問題を理解する		1.母性の発揮を促す看護 1)遺伝相談 (1)遺伝相談とは (2)出生前診断 2)不妊治療 (1)不妊とその原因 (2)不妊検査・治療 (3)着床前診断 (4)胎児治療と遺伝子治療								【4/30時間】 医師 総合病院(産婦人科)8年、診療所(産婦人科)25年の実務経験	
正常な妊娠経過および妊婦・妊娠の異常を理解する		1.正常な妊娠経過 1)妊娠期の身体的特性(人体のしくみ…でも学ぶ) (1)妊娠の生理 (2)胎児の発育とその生理 (3)母体の生理的变化 2.妊婦・妊娠の異常 1)ハイリスク妊娠 (1)生活習慣・心理社会的因子・体格 (2)妊娠・出産歴 (3)糖尿病・妊娠糖尿病 (4)心疾患 (5)貧血 等 2)妊娠期の感染 2)妊娠疾患 3)多胎妊娠 4)妊娠持続期間中の異常 5)子宮外妊娠								【6/30時間】 医師 総合病院(産婦人科)等23年の実務経験	
方法	講義		評価方法		筆記試験			講師			
学習目標		授業内容									
妊娠が妊婦・家族に及ぼす影響を理解する		1.妊娠期における看護 1)妊娠期の心理・社会的変化 (1)妊婦の心理的特徴 (2)妊娠と家族および社会 2)妊婦と胎児のアセスメント (1)妊娠経過の診断 (2)胎児の発育とその健康状態の診断 (3)妊婦健康診査 (4)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (5)妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3)妊婦と家族の看護 (1)妊婦の保健指導の目的と方法 (2)妊婦の保健指導の実際 (3)親になるための準備教育								【20/30時間】 本校専任教員6年 病院(産婦人科)5年、診療所(婦人科)1年の実務経験	
妊婦と胎児、家族のアセスメントの視点を理解する											
妊娠期に注意すべき状態、ハイリスク妊婦についての援助の方法を理解する		2.ハイリスク妊婦の看護 1)高年妊婦の看護 2)若年妊婦の看護 3)肥満・過剰体重増加妊婦の看護 4)勤労妊婦への援助 5)合併症を有する妊婦の看護 6)妊娠高血圧症候群妊婦の看護 7)切迫流・早産の妊婦の看護 8)多胎妊婦の看護 9)精神障害合併妊婦と家族の看護 3.看護過程の展開 妊娠高血圧症の妊婦									
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論. 医学書院 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディカ 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布											

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	単位	4	時間	105
科目	母性看護学方法論Ⅱ(分娩期)	単位	1	時間	30	進度	2年次後期
目的 分娩期にある人々とその家族への看護について基礎的知識と技術を学ぶ。							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						【8/30時間】 医師 総合病院(産婦人科) 等23年の実務経験
分娩の経過にともなう身体的変化と産婦の反応や心理的変化について理解する	1.分娩の要素 1)分娩とは 2)分娩の3要素 3)胎児と子宮および骨盤との関係 4)分娩の機序						
分娩経過中の産婦・胎児の問題について理解する	2.分娩の異常 1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害 4)胎児の付属物の異常 5)分娩時の損傷 6)分娩第3および分娩直後の異常 7)分娩時異常出血 8)産科処置と産科手術						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						【22/30時間】 本校専任教員6年 病院(産婦人科)5年、 診療所(婦人科)1年 の実務経験
分娩に進行に伴う身体的変化と産婦の反応や心理的変化を理解する	1.分娩の経過にともなう看護 1)分娩の進行と産婦の身体的変化 2)産痛 3)胎児に及ぼす影響 4)産婦の心理・社会的変化						
分娩の進行と産婦・胎児、家族に対するアセスメントの視点を理解する	2.産婦・胎児、家族のアセスメント 1)産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2)産婦と家族の心理・社会的面のアセスメント 3)産婦・家族における看護上の問題点の明確化 3.産婦と家族の看護 1)看護目標と産婦のニーズ 2)安全分娩への看護 3)安楽な分娩への看護 4)出産体験が肯定的になるための看護 5)基本的ニーズに関する看護 6)家族発達を促す看護						
分娩進行に伴う産婦に対する援助の方法を理解する	4.分娩期の看護の実践 1)分娩第1期の活動期 (子宮口開大3cm～7cmまで)の看護 2)分娩第1期活動の終盤 減速期:子宮口開大7cm～8cm以上開大まで)の看護 3)分娩第2期の看護 4)分娩第3・4期の看護						
分娩経過中に注意すべき状態についての援助の方法を理解する	5.異常のある産婦の看護 1)破水が生じた産婦の看護 2)分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3)胎児ディストレスを生じるリスクのある産婦の看護 4)急速遂娩を受ける産婦の看護 5)分娩時異常出血のある産婦の看護 6)精神障害合併妊婦と家族の看護						
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論. 医学書院 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディア 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	単位	4	時間	105
科目	母性看護学方法論Ⅲ	単位	1	時間	15	進度	2年次後期
単元名	産褥期・新生児						
目的	産褥期にある人々と新生児および家族への看護について基本的知識と技術を学ぶ。						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						【11/15時間】 本校専任教員6年 病院(産婦人科)5年、 診療所(婦人科)1年 の実務経験
褥婦の身体的変化 および褥婦・家族の 心理的・社会的変 化を理解する	1.産褥経過 1)産褥期の身体的変化 2)産褥期の心理・社会的変化						
産褥経過中の褥婦 の問題と注意すべ き状態についての 援助方法を理解す る	2.産婦の異常と看護 1)子宮復古不全 2)産褥期の発熱 3)産褥血栓症 4)精神障害 5)異常のある褥婦の看護 (1)感染症を持っている褥婦の看護 (2)乳房トラブル (3)母子分離時の褥婦の看護 (4)児を亡くした褥婦・家族の看護						
褥婦と新生児およ び家族の看護に必 要なアセスメント の視点を理解する	3.褥婦のアセスメント 1)産褥経過の診断 2)産褥の健康状態のアセスメント 4.褥婦と家族の看護 1)身体機能回復および進行性変化への看護 2)児との関係確立への看護 3)育児技術にかかわる看護 4)家族関係再構築への看護 5.施設退院後の看護 1)育児不安と育児支援 2)職場復帰 6.精神障害合併症褥婦と家族の看護						
新生児の看護に必 要なアセスメント の視点を理解する	7.新生児のアセスメント 1)新生児の診断 2)新生児の健康状態のアセスメント 8.新生児の看護 1)出生直後の看護 2)出生後から退院時までの看護						
新生児期の注意す べき状態について の援助の方法を理 解する	9.新生児の異常の看護 1)低出生体重児の看護 2)高ビリルビン血症児の看護 10.看護過程の展開						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						【4/15時間】 医師 総合病院(小児科)15 年、診療所(小児科) 21年の実務経験
胎児から新生児へ の生理的変化、身 体的特徴を理解す る	1.新生児の生理 1)新生児とは 2)新生児の形態・機能						
新生児の問題につ いて理解する	2.新生児の異常 1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)高ビリルビン血症						
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論. 医学書院 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディカ 参考書:新生児学入門. 医学書院 みるみる母性看護 医学評論社							

専門分野Ⅱ

【 母性看護学実習 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

妊娠・分娩・産褥期にある対象を理解し、母子および家族に対して援助する基本的能力を養う

2. 実習目標

- 1) 妊産褥婦および家族に及ぼす影響を理解する
- 2) 母子および家族の健康を促進させる日常生活の援助ができる
- 3) 新生児に必要な援助ができる
- 4) 母子および家族が新しい役割に適応するための援助を考える
- 5) 保健・医療・福祉のチームにおける看護師の役割を理解する
- 6) 自己の母性観・父性観を深めることができる
- 7) 専門職業人としての基本的態度を養う

3. 実習方法

	内 容	記録用紙	提出日
褥室 新生児	・初日にオリエンテーションを受ける ・産褥0日目以降の褥婦を受け持つ ・生後0日目以降の新生児も共に受け持つ ・褥婦の日々の観察は指導者と共に実施する ・新生児の日々の観察は沐浴時に実施する ・褥婦の各種保健指導は同行・見学する ① 授乳指導 ② 沐浴指導 ③ 退院指導 ・新生児の検査を見学する ※受け持ちがない場合、教員・指導者に相談する	No.1 実習課題用紙	実習初日
		No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.3 受け持ちデータベース①	受け持ち決定日
		No.3 受け持ちデータベース②	
		No.4 受け持ち褥婦アセスメント	
		No.5 受け持ち新生児アセスメント	
L D 分娩室	・初日にオリエンテーションを受ける ・承諾をいただいた産婦さんの分娩期に入る ・指導者と共に必要な援助を実施する ・褥室へ入室するまでの一連を見学実習する	No.1 実習課題用紙	実習初日
		No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.6-①②分娩見学実習	分娩見学後
外 来	・妊婦健診 ・内診室の看護 ・産褥の1ヶ月健診 ・新生児の1ヶ月健診 ・母乳外来	No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.7 外来見学実習	健診見学後
		No.8 健診・集団指導見学実習	
教 室	・両親教室 ・マタニティヨガ教室 ・各サークル	No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.8 健診・集団指導見学実習	健診見学後
価 評	・最終評価のみを実施	評価表	評価日
記 録 用 紙	共通記録No.1 実習課題用紙 共通記録No.2 行動計画書 共通記録No.6 看護計画 共通記録No.8 沐浴手順 共通記録No.9 実習振り返り用紙	母性記録No.3 受け持ちデータベース① 母性記録No.3 受け持ちデータベース② 母性記録No.4 受け持ち褥婦アセスメント 母性記録No.5 受け持ち新生児アセスメント 母性記録No.6 分娩見学実習	母性記録No.7 外来見学実習 母性記録No.8 健診・集団指導見学

4. 提出について

- 1) 日々の提出記録は上記のとおりとする
- 2) それぞれのセクション別（担当の指導者あて）に指導者に提出する
- 3) 事前学習、事後学習などのレポートは随時提出し、指導者に指導を受ける
- 4) 評価日当日の朝、実習記録一式をNo.順に綴じファイルに入れその日の指導者に提出する
- 6) 最終提出は教員とし、本実習が終了した次週の登校日を〆切とする

5. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		精神看護学		単位	4	時間	105
科目	精神看護学概論(対象の理解)		単位	1	時間	30	進度	1年次後期		
目的	看護における精神看護の意義・目的・対象・役割機能を理解し、精神の危機的状況や精神を障がいされた個人とその家族への援助を考えるのに必要な基礎的知識を学ぶ									
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート					講師
学習目標			授業内容							看護師 (病院で11年の実務経験有)
精神看護の目的と意義を理解する			1.精神看護の目的と意義 1)「心のケア」と現代社会 2)精神障害とは 3)精神看護の役割							
精神看護の対象を理解する			2.精神看護の対象とその理解 1)精神の健康とは 精神健康の基準 2)精神障害のとらえ方 3.人間の心のはたらき 1)人格と気質 2)知能 3)意識と認知機能 4)感情 5)学習と行動 6)心の理論 4.心のしくみと人格の発達 精神分析と理論 5.心の危機とストレス 1)危機理論とストレス理論 2)コーピング 6.人間関係と心のはたらき 1)家族と健康 2)家族内のコミュニケーションのゆがみ 3)家族のなかの役割関係 4)集団のなかの自己 5)グループの力 7.精神を病むことと生きること 8.さまざまな精神症状の特徴 1)統合失調症 2)気分(感情)障害							
精神看護の変遷を学ぶことを通して精神障害者のおかれている社会的背景、人権について考える			9.社会のなかの精神障害 1)精神障害と治療の歴史 2)日本における精神医学・精神医療の歴史 3)諸外国の歴史 4)精神保健活動の動向 5)精神保健と法制度							
テキスト:系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	精神看護学	単位	4	時間	105
科目	精神看護学方法論Ⅰ(精神看護)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	心の健康の保持増進、疾病予防を図るための保健・医療・福祉対策を学び、対象を理解する。心のバランスを崩している人を対象とし、心の健康の維持増進へ働きかけその人らしく生きていけるよう援助するための方法を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標	授業内容						大学教授 看護師 精神看護学修士 他看護専門学校で専任教員8年、総合病院(精神科)で2年、病院(精神科)6年の実務経験
生活の場における心の健康と危機的状況およびそれらに影響を与える要因を理解し、健全な精神の発達への援助を思考するのに必要な基礎的知識を学ぶ	1.対人関係成立への援助 1)自分について知ること 2)援助する相手について知ること 3)人としての尊厳を尊重する 4)互いの境界をまもる 2.心の理解に基づく援助 1)話をする、聞くこと 2)気持ちに焦点をあてる 3)素直になること 3.対象との人間関係をアセスメントする 1)アセスメントの必要性 2)プロセスレコード 3)アセスメントの必要性 4.対象と看護者の関係でおこること 1)共感する 2)拒絶される 3)攻撃の対象となる 4)転移・逆転移 5)操作される 6)訴えにふりまわされる 5.精神科病棟のチームのなかでおこること 1)病棟のダイナミクス 2)チームのスプリッティング 3)カンファレンスでおこること 6.身体疾患と精神看護 1)がんと精神症状 2)手術後にみられる精神症状 3)身体の損傷と精神症状 7.看護カウンセリング 対象への対応をロールプレイを用いて演習する 8.リエゾン精神看護とは 1)リエゾン精神看護の歴史 2)リエゾナーズの活動 9.コミュニティにおける精神保健・精神看護 1)学校における精神保健・精神看護 2)職場における精神保健・精神看護 9.地域における精神看護 1)地域で生活するための原則 2)生活を支える制度 3)地域での看護の実際 (1)青年期の患者の地域生活を支える (2)若い対象の退院を支援する (3)複合的な問題をかかえた長期入院対象の退院を支援 (4)就労を支援する (5)家族を支援する 10.看護師のメンタルヘルス 看護における感情労働						
テキスト:系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念, 医学書院 系統看護講座 精神看護学[2]精神看護の展開, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		精神看護学		単位	4	時間	105
科目	精神看護学方法論Ⅱ(精神障害)		単位	1	時間	15	進度	2年次前期		
目的 精神障害についての基本的な知識を学ぶ										
方法		講義	評価方法		筆記試験・レポート			講師		
学習目標		授業内容								医師 総合病院(精神科、麻酔科、法医学)5年、 病院(精神科心療内科)15年の実務経験
精神症状に関連する主要な疾患の概念を理解する		1.精神疾患の理解 1)主要な精神疾患の概念、症状、治療、経過 (1)統合失調症 (2)気分障害 (3)不安障害 (4)身体表現性障害 (5)摂食障害 (6)物質関連障害 (7)パーソナリティ障害 (8)転換性障害								
精神科における治療を理解する		2.精神科における治療 1)薬物療法 (1)向精神薬とは (2)抗精神薬 (3)気分安定薬 (4)抗不安薬 (5)睡眠薬 (6)抗てんかん薬 (7)抗認知症薬 (8)抗酒薬 (9)コンプライアンスとアドヒアランス 2)電気けいれん療法 3)精神療法 (1)個人療法 (2)集団精神療法 (3)家族療法 4)環境療法・社会療法 (1)作業療法 (2)精神科リハビリテーション								
テキスト:系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念, 医学書院 系統看護講座 精神看護学[2]精神看護の展開, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	精神看護学		単位	4	時間	105
科目	精神看護学方法論Ⅲ (精神科看護)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期	
目的	精神機能に障がいのある人を対象とし、症状による生活障害を学び、その人が置かれている社会状況の中でその人らしく生きていけるよう援助するための方法を学ぶ							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート					講師
学習目標		授業内容						看護師 病院(外科、消化器科、精神科)11年の実務経験
精神機能に障がいのある個人および家族への援助に必要な具体的知識・技術を学ぶ		1.精神科における看護師の役割 1)入院治療の意味を理解する (1)対象の入院体験と入院することによるデメリット (2)入院の仕方 (3)入院治療の目的 (4)対象のアセスメント 2)治療的環境をつくる 3)安全をまもる (1)安全な環境をつくる (2)リスクマネジメント 4)緊急事態への対処 (1)自殺のリスクアセスメントと援助 (2)暴力のアセスメントと看護師の対処 (3)無断離院に注意が必要な対象とおきたときの対処 (4)緊急事態とスタッフのサポート 5)回復を助ける (1)治癒と回復 (2)精神科におけるリハビリテーション (3)回復を支えるさまざまな方法 (4)回復のビジョン (5)回復を支える社会の構築						
精神症状をもつ患者の生活を整える看護を学ぶ		2.身体症状の援助 1)身体にあらわれる心の痛み 2)精神科における身体への援助 3)精神科の治療と身体への援助 (1)抗精神病薬の有害反応 (2)長期間投与時にみられる有害反応 (3)生命の危機を伴う有害反応 (4)服薬の援助 4)電気けいれん療法の看護 5)精神療法としての身体への援助 3.日常から気をつけておきたい身体合併症 1)メタボリックシンドローム 2)やせ 3)糖尿病 4)肺炎 5)骨折 6)窒息 7)悪性新生物 4.睡眠の援助 1)健康と睡眠 2)睡眠のパターンとリズム 3)睡眠障害と援助 5.心的外傷をもつ対象への身体からはじまる援助 6.精神科における身体への援助の実際を事例を用いて展開する 1)精神科におけるフィジカルアセスメント 2)対象の回復段階に応じた身体への援助の展開方法 3)日常生活における身体援助						
テキスト:系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念、医学書院 系統看護講座 精神看護学[2]精神看護の展開、医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布								

専門分野Ⅱ

【 精神看護学実習 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的
精神に障がいのある人および家族を理解し、精神の健康回復に対する看護の実践に必要な能力を養う
2. 実習目標
 - 1) 精神に障がいのある対象をありのままに観察する
 - 2) 対象に必要な日常生活の援助ができる
 - 3) 精神病棟における特殊な環境と治療方法を理解する
 - 4) 対象との関わりにおいて生じる相互作用のプロセスを理解できる
 - 5) 社会復帰に向けて対象に必要な援助を考える
 - 6) 集団におけるチームワークを考える
3. 実習方法

口 程	内 容	記録用紙
登校日	学内オリエンテーション 事前学習、実習の課題提出	事前学習・実習目標提出(学内)
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始 *援助の実施は受け持ち対象以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する	情報収集・アセスメント・関連図に記入
〃	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する	看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入
4日目	・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。	プロセスレコード記入
登校日	実習記録指導	
5日目	・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・以後、行程を繰り返しながら援助を行なう ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する	記録は日々追加していく
〃	・学生は、受け持ち対象のケースカンファレンスを一回は行う 事前に、ケースカンファレンス用紙に記入し情報提供する	ケースカンファレンス記入
7日目	*受け持ち対象変更時は新たに行程を踏む ・対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。 ※6日目頃に中間評価	プロセスレコード記入 評価表提出
登校日	実習記録指導	
8日目	・対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。	プロセスレコード記入
〃	反省会（実習目標の達成度、受けもち対象を通しての学び、自己目標の達成度）	
最終日	最終評価	評価表提出

※清水病院の実習方法 デイケア見学、共同作業所見学、訪問看護説明
1 週目レクリエーション計画、2 週目レクリエーション準備、
3 週目レクリエーション実施

4. 実習中の注意事項
 - 1) 対象のプライバシーを保持すること
 - 2) 自己の個人衛生と精神保健に留意すること
 - 3) 実習グループとして協力すること
5. 提出について
 - 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
 - 2) 提出は実習担当教員へ、次週の登校日に提出する
6. 単位修得の認定
 - 1) 成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
 - 2) 成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	単位	4	時間	90
科目	看護管理	単位	1	時間	30	進度	3年次前期
目的 看護専門職として、管理に関する基礎的知識や技術を修得し、看護管理上の問題を解決する方法の方法を学ぶ。							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート			講師	
学習目標	授業内容						講師
看護における管理の方法と、施設内や地域における看護方法を学ぶ	1.看護とマネジメント 1)看護管理とは 2)マネジメントとは 3)看護におけるマネジメント 2看護ケアのマネジメント 1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利の尊重 3)安全管理 4)チーム医療 5)看護業務の実践 テキスト:系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理, 医学書院						【6/30時間】 本校専任教員26年 看護師 総合病院(脳神経外科、整形外科、救急外来など)11年の実務経験
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート			講師	
学習目標	授業内容						講師
看護における管理の方法と、施設内や地域における看護方法を学ぶ	3.看護サービスのマネジメント 1)看護サービスのマネジメント 2)組織目的達成マネジメント 3)看護サービス提供のしくみづくり 4)人材のマネジメント 5)施設・設備環境のマネジメント 6)情報のマネジメント 7)物品のマネジメント 8)組織におけるリスクマネジメント 9)サービス評価 4.看護を取り巻く諸制度 5.マネジメントに必要な知識と技術 1)組織とマネジメント 2)リーダーシップとマネジメント 3)組織の調整 4)組織と個人 テキスト:系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理, 医学書院						【18/30時間】 看護師 認定看護管理者 総合病院39年の実務経験
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート			講師	
学習目標	授業内容						講師
看護における管理の方法と、施設内や地域における看護方法を学ぶ	1. 看護の活動領域 1)国際協力 2)プライマリーヘルスケア 3)異文化理解 4)国際看護活動 (1)ジャイカ青年海外協力隊の研修員との交流 (2)ワークショップ (3)アジア・西アフリカの衛生状況実際 テキスト:系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学, 医学書院						【6/30時間】 大学准教授 助産師 大学22年、総合病院(産婦人科など)21年の実務経験
テキスト:系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理, 医学書院 系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学, 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論, 医学書院 参考書:看護学基礎テキスト全4巻, 日本看護協会出版会							

統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	単位	4	時間	90
科目	医療安全	単位	1	時間	30	進度	3年次前期
目的 日常の看護において危険を予測し、看護・医療事故予防の技術とシステムについて知識を深め、安全に看護実践ができる能力を養う							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					【14/30時間】 本校専任教員(2年) 看護師 総合病院(NCU、外科、ICU、消化器科など)21年の実務経験
人は誰でも事故を起こす存在であることが理解できる		1. 医療安全を学ぶことの大切さ 1)医療安全の定義 2)安全の言葉の定義 3)ヒューマンエラー					
対象の状況と場に応じて安全な看護を提供するためにリスクを判断する必要性を理解する		2. 事故の分析と対策の検討 1)インシデントとアクシデント 2)KYTとは 3. 事例を用いた臨床想定訓練 シミュレーション: 事故発生の模擬体験 (演習)					
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					【16/30時間】 看護師 総合病院(内科、手術室、医療安全推進室など)39年の実務経験
医療現場における危険要因を理解する		1.医療事故と看護業務 医療事故とは 2.看護事故の構造と分類 1)看護事故の構造 2)インシデント・アクシデント報告書 3)事故の分類 4)ヒューマンエラー防止対策					
医療現場における専門職としての責任と倫理的判断の必要性について理解する(医療安全対策)		3.医療安全に関する看護職の法的責任 4.医療安全に関する看護倫理 5.医療安全とコミュニケーション 1)不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2)医療事故防止のための対象とのコミュニケーション 3)事故の未然防止上重要なコミュニケーション 6.医療における事故防止体制の構築・システムの改善 1)組織としての医療安全対策の意義 2)システムとしての事故防止の具体例 3)国の医療安全対策					
テキスト:系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全, 医学書院 参考書:医療安全ワークブック, 医学書院 医療安全に活かすKYT, メジカルフレンド社							

統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践			単位	4	時間	90
科目	救急医療	単位	1	時間	15	進度	3年次前期		
目的 急病、けが、災害など急に身体の疾患または損傷を受けた救急患者への救急処置、医療行為の介助、生活行動援助、精神的サポートなどの看護活動と位置づけを学び看護実践につなげる									
方法	講義・演習		評価方法	筆記試験・実技試験			講師		
学習目標		授業内容							
救急医療と救急看護の基礎を理解する		1.救急看護の概念 1)救急看護とは 2)救急医療体制 3)救急看護の場 2.救急看護の対象の理解 1)救急患者の特徴 2)救急患者家族の特徴 3.救急看護体制 1)初期・第二次救急医療における対応 2)第三次救急医療における対応						看護師 病院等21年、介護施設9年の実務経験	
救急時に安全に医療機器を取り扱うことができる		4.医療用器械の取り扱い 1)ME機器とは 2)ME機器を使用するための基礎知識 3)ME機器取り扱い上の留意事項							
主要病態に対する救急処置と看護を理解する		4.救急患者の観察とアセスメント 1)全身と外見の観察とアセスメント 2)緊急検査 5.心肺停止状態への対応 1)一次救命処置 2)二次救命処置 6.外傷・熱傷・骨折・中毒・溺水への対応 7.事例を用いた緊急時の対応の実際							
テキスト:系統看護講座 別巻 救急看護学, 医学書院 参考書:系統看護講座 基礎看護学[4] 臨床看護学総論, 医学書院 成人看護学 成人看護技術, 南江堂									

統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	単位	4	時間	90
科目	災害看護	単位	1	時間	15	進度	3年次前期
目的	災害は予期しない時に大きな破壊を突然もたらし、人々の生命の危機と健康の破壊、生活基盤の崩壊をもたらす。災害が発生した場合、看護職は誰もが災害看護活動に参加する可能性を持っているため、看護基礎教育において災害看護を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標	授業内容						看護師 日本DMAT隊員 赤十字救急法救急員 総合病院(循環器・内科、消化器科、救急など)25年の実務経験
災害看護の全体を理解し、災害時の看護の基礎的知識を身につける	1.災害看護のあゆみ 2.災害医療の基礎知識 1)災害の定義 2)災害の種類と健康障害 3)災害医療の特徴 4)災害と情報 5)国内の救援活動の現状と課題 3.災害看護の基礎知識 1)災害看護の定義と役割 2)災害看護の対象 3)災害看護の特徴と看護活動 4.災害サイクルに応じた活動現場での災害看護 1)急性期・亜急性期 (1)トリアージ (2)応急処置 2)慢性期・復興期 3)静穏期 5.災害とこころのケア 6.事例における災害看護活動						
テキスト:系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学, 医学書院 参考書:系統看護講座 別巻 救急看護学, 医学書院							

統合分野

【 看護の統合と実践 実習 】 2単位 90時間 3年次後期

1. 実習の目的

病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、チーム医療の一員として安全に看護実践できる能力を養う

2. 実習目標

- 1) 病棟管理の実際や他部門調整等の見学を通して看護管理の実際を学ぶ
- 2) 組織として安全で質の高い看護がどのように提供されているかを理解する
- 3) 対象に潜む医療事故の危険因子を総合的にアセスメントし、援助の優先度を考えながら状況に応じた看護実践ができる
- 4) チーム医療における他職種との協働の中で看護師の役割を理解する
- 5) 専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1週間の計画案記入	事前学習・実習目標提出(学内) 共通記録用紙No.1 No.2
1日間	・看護部長から、病院管理の体制や他部門との調整方法について全体オリエンテーションを受ける ・医療安全における医療安全管理者の役割についてオリエンテーションを受ける ・病棟師長から、オリエンテーションを受ける ・看護師長に同行し、実際の場面を見学し、管理職の役割を学ぶ	管理・医療安全は統合記録用紙 No.6-①・No.6-②に記入
9日間	・複数の対象を受け持ち看護援助を展開する ・受け持ち対象の紹介、情報収集開始 ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する ・受け持ちの中から一人の対象を選定し看護要約を作成する *援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する	共通記録のデータベース用紙にて情報収集 病棟の看護問題を参考に、現在の対象の状態に応じた問題点を抽出し、看護援助計画を立案 共通記録用紙No.5に記入 フローチャート統合記録用紙No.4にて経過観察・援助を記載 看護要約統合記録用紙No.5 他患者も含めて援助の実際はNo.8に記載
夜間実習 事前	・実習前に、夜間体制や業務内容のオリエンテーションを受ける 夜間実習時間 16:00～翌日 9:00 (仮眠含む)	・受け持ち対象に関してはフローチャート統合記録用紙No.4にて経過観察・援助の実際を記載 ・夜間実習での学びをNo.6-②に記載
夜間実習 2日間	・勤務交替時の申し送りを受ける。 ・夜間の対象の状態を把握する。(受け持ち優先) ・夜間を通して業務内容の実施や、受け持ち対象の看護援助を展開する ・勤務交替時の申し送りを行なう。(受け持ち優先)	
6日目	中間評価	評価表提出
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評価	評価表提出

対象への説明書・同意書は学生が同じ対象を受け持つときは連名とする

共通記録用紙No.1・No.2・No.3 (データベースのみ) No.5・No.8・No.9 使用統合専用記録用紙No.4～6 使用
最終提出は、No.順にそろえて、最後に評価表を添付して提出すること

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の8分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

統合分野

分野	統合分野		教育内容		在宅看護論		単位	4	時間	90	
科目	在宅看護論(在宅看護の理解)		単位	1	時間	15	進度	1年次後期			
目的	保健・医療・福祉ケアシステムの中での在宅看護の位置づけを理解し、在宅における看護職の役割を学ぶ										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師			
学習目標		授業内容								看護師 介護支援専門員 (総合病院で19年、訪問看護ステーション等で13年の実務経験有)	
在宅看護が必要とされる背景と根拠を理解する		1.在宅看護の概念 1)在宅看護の目指すもの 2)保健・医療・福祉の動向と訪問看護 3)超高齢化社会の進展と地域連携のシステム 4)医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割 5)在宅看護における看護師の倫理(訪問看護倫理綱領を含む)									
在宅看護の対象者を理解する		2.在宅療養者と家族の支援 1)在宅看護の対象者の特徴 2)在宅看護の対象者としての家族 3)家族看護アセスメント									
在宅看護の提供方法を理解する		3.在宅看護の制度 1)訪問看護制度の創設と発展経緯 2)ケアマネジメントの概念と機能 3)介護保険制度 4)訪問看護制度 4.世界の訪問看護活動の動向									

テキスト:系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院
参考書:適宜関係図書紹介 資料配布

統合分野

分野	統合分野		教育内容	在宅看護論		単位	4	時間	90	
科目	在宅看護方法論Ⅰ (在宅看護技術)		単位	1	時間	30	進度	2年次前期		
目的	療養者の日常生活から必要とされる看護支援を見極めるための動作分析と在宅で求められる医療技術と看護を学ぶ									
方法	講義		評価方法	筆記試験・レポート				講師		
学習目標		授業内容							脳卒中リハビリテーション認定看護師 病院(脳神経外科)17年、訪問看護ステーション2年の実務経験	
在宅の場での療養者理解と援助関係形成を理解する		1. 生活すること”を支える技術 1)コミュニケーション 2)動作分析								
在宅で求められる技術を理解する		2. 在宅で求められる技術の応用 1)呼吸器に関する技術 2)食生活・嚥下に関する技術 3)排泄に関する技術 4)移動・移乗に関する看護 5)清潔に関する技術 6)認知機能のアセスメント法と援助技術 7)終末期看護								
		3. 在宅での医療技術 1)褥瘡 2)尿道留置カテーテル 3)ストーマ(人工肛門・人工膀胱) 4)経管栄養 5)在宅中心静脈栄養法(HPN) 6)非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 7)在宅酸素療法(HOT) 8)人工呼吸療法(OMV)と排痰法 9)疼痛管理								
テキスト:系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布										

統合分野

分野	統合分野		教育内容		在宅看護論		単位	4	時間	90	
科目	在宅看護方法論Ⅱ(地域連携)		単位	1	時間	15	進度	2年次前期			
目的	保健・医療・福祉との連携とマネジメントの必要性を理解し、対象のニーズに基づく生活支援方法及び社会資源の活用方法を理解する										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師			
学習目標			授業内容								
保健・医療・福祉との在宅看護の連携活動について理解する			1.他職種との連携 1)在宅における連携の特徴 2)医師との連携 3)介護保険の社会資源との連携 4)その他の社会資源との連携 5)ネットワークづくり 6)入退院時における医療機関と訪問看護の連携							看護師 総合病院(腎臓内科など)26年、大学18年の実務経験	
			2.在宅看護における安全性の確保 1)在宅看護におけるリスク 2)医療事故防止 3)感染防止 4)療養生活上の安全確保 5)災害時の在宅看護 3.対象者の権利保障 1)個人の尊厳 2)自己決定権 3)個人情報の保護 4)情報の開示 5)成年後見 6)虐待 7)在宅看護における法律問題の事例								
対象のニーズに基づく生活支援方法と社会資源の方法を理解する											
テキスト:系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布											

統合分野

分野	統合分野	教育内容	在宅看護論	単位	4	時間	90
科目	在宅看護方法論Ⅲ (在宅看護活動)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的 在宅看護活動の実践例から多様な対象への看護を理解する							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						
在宅看護における看護過程の展開方法を理解する	1.在宅看護過程展開のポイント 1)対象者の多様化の尊重 2)環境・家族への視点 3)時間的な広がりへの着目 4)生活を支える制度と支援体制の理解 2.在宅看護過程 1)特徴 2)情報収集とアセスメント 3)目標・計画 4)実施と評価 5)標準化に向けた取り組み						保健師 診療所、訪問看護ステーション等で31年の実務経験 看護師 総合病院13年、訪問看護ステーション6年の実務経験
対象に応じた在宅看護を理解する	3.介入時期別の特徴 1)準備期 2)移行期 3)安定期 4)急性増悪期 5)終末期 6)終了期 4.在宅看護活動の実践例 1)脳卒中 2)パーキンソン病 3)認知症 4)小児療養者 5)筋委縮性側索硬化症 6)慢性閉塞性肺疾患 7)独居の療養者 8)終末期の療養者 9)統合失調症の療養者						
テキスト:系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布 在宅看護論. 医歯薬出版株式会社							

統合分野

【 在宅看護論実習 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

目的：保健・医療・福祉との連携・共働を通して、看護の役割を理解する
地域で看護を必要としているあらゆるライフステージ・あらゆる健康レベルにある人々とその家族に対して、現状の生活を踏まえた看護援助が出来る基礎的能力を養う

2. 実習目標

- 1) 地域保健事業の実践が理解できる
- 2) 社会情勢を反映した支援事業活動が理解できる
- 3) 在宅療養者とその家族を生活者として総合的に理解できる
- 4) 対象・家族のニーズを考慮した看護援助が理解できる
- 5) 専門職業人としての基本的態度を含め看護観を深め

3. 実習方法

日 程	内 容	記録用紙	
事前Ⅰ	学内：①実習課題確認 ②講義資料の見直し	実習課題 事前学習課題	講義資料
1日	1) 県北保健福祉事務所・精神保健福祉センター 概要説明・見学・GW等 (事後学習)		共通記録No.9
1日	2) 保健福祉センター 概要説明・見学・健康推進事業・GW等 (事後学習)		共通記録No.9
1日	3) 地域包括支援センター（福島市/伊達市） 概要説明・相談業務・地域健康推進事業・ GW等（事後学習）		共通記録No.9
1日	4) 居宅介護支事業所 概要説明・相談業務(要介護者)・社会資源の 実際・GW等（事後学習）		共通記録No.9
事前Ⅱ	学内：①訪問看護ステーション実習課題確認	実習課題	講義資料
8日	オリエンテーション 同行訪問 在宅調整会議などの参加 ＊訪問対象についての意見交換（カンファレンス） ＊1事例挙げて、自らの考えをまとめる 反省会（最終評価）		共通記録No.1 共通記録No.2 在宅記録No.3-①と② 共通記録No.4・5・6 在宅看護論実習評価 ※中間はありません 共通記録No.9

※1)～4)の事後課題は、各実習毎に関心の高かった項目についてまとめ共通記録No.9提出とする

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助が助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) ①～④終了後、指定された日時に No.9 を提出する
- 2) 指定された実習記録一式を上記の表の順に整理しファイルに入れて提出
- 3) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。